

- ・日米親善試合が松本市野球場にて開催

平成19年

- ・創造学園、第79回選抜高等学校野球大会出場
- ・選手権大会が96校参加で開催
- ・長野県高等学校野球大会記念史V刊行
- ・長野日大、第117回秋季北信越地区高等学校野球大会優勝

平成20年

- ・長野日大、第80回選抜高等学校野球大会ベスト8
- ・丸子修学館、第80回選抜高等学校野球大会出場

平成21年

- ・秋季北信越地区予選会前に各地区で予備戦実施

平成23年

- ・4月26日をもって一般財団法人 長野県高等学校野球連盟として新たに発足

平成24年

- ・地球環境、第84回選抜高等学校野球大会出場
- ・秋季北信越県大会から各地区6校24校で開催

平成26年

- ・東海大三、第86回選抜高等学校野球大会出場

平成27年

- ・松商学園、第87回選抜高等学校野球大会出場
- ・第60回全国軟式選手権、上田西ベスト4 国体出場

平成28年

- ・日本ウェルネス信州筑北キャンパス加盟

平成29年

- ・長野県高等学校野球大会記念史VI刊行

平成30年

- ・佐久長聖、第100回全国高等学校野球選手権記念大会1回戦甲子園史上初のタイブレークを制す

令和2年

- ・コロナウィルス感染症拡大に伴い142回春季北信越大会すべてが中止となる

令和3年

- ・上田西、第93回選抜高等学校野球大会出場
- ・1年ぶりに春季大会から入場料値上げで大会開催

III 郡市体育団体

南佐久郡体育協会

1 発足までの経過

大正初期、郡青年团组织結成に伴い体育事業が開始され、大正6年に第1回南佐久郡青年団体育大会が開催された。昭和4年白田野球協会が創立され、翌5年4月27日に第1回南北佐久野球大会が行われた。

昭和22年4月1日、旧23ヵ町村で構成する南佐久郡体育協会が発足した。同じ年、田口体育協会が、翌23年には青沼・白田体育協会が発足している。

昭和23年4月1日には、長野県体育協会に加盟することになった。昭和36年4月1日に、佐久市旧野沢、中込の脱退（佐久市へ合併）により3町5村からなる組織となった。その後合併等を経て、2町4村体制となっている。

2 創立当時（昭和20年代）

太平洋戦争が日本の敗戦という結果で終わった昭和20年代初期は、人心が定まらない世相の中で、スポーツによる刷新をはかろうと、南佐久郡体育協会を前記のとおり発足させ、各種の競技大会を開催した。その先駆として、昭和23年9月4日には、戦時中中止となっていた南北佐久野球大会が、第3回大会として行われた。9月19日には、白田小校庭で第1回南佐久郡陸上競技大会が開

催され、優勝は川上村であった。10月16日には第1回排球・卓球大会も行われた。昭和25年10月10日には第1回南佐久郡駅伝大会が開催された。

このような中で、陸上競技の石井賢治（白田高校一慶応大）が5,000、10,000mで県記録を作った（昭和26年）。また、石井は昭和27年1月3日からのサンシルベスト国際競技大会（ブラジル）に出場するなど国際的な選手となった。

昭和26年11月15、16日と行われた第1回県下縦断駅伝大会では、南佐久チームがチームワーク良く第2位となった。昭和27年には第1回南佐久郡バドミントン大会を開催し、郡内のスポーツ活動が大きく飛躍し、地域住民のスポーツへの関心の高まりが、生活の向上へとつながったのである。

3 その後のあゆみ

当地域の特性を生かしたスケートは、古くから地域の町村で協議会がもたれており、高校でも昭和20年代から松原湖での中央の大学生の合宿、協議会に刺激されてクラブ活動も活発になり、高見沢初江（南佐久実高＝現小海高、30年1月全日本スピードスケート選手権優勝、33年世界スピード選手権8位、35、39年冬季オリンピック

入賞)、鷹野靖子(南佐久実出 40年、41年世界スピード選手権出場)、有賀秋子(南佐久実出 42年世界スピード選手権出場)、内藤修(臼田 45年世界スピード選手権出場)等国際的選手が選出した。

昭和37年5月には、第1回南佐久郡弓道大会を、昭和38年には第1回南佐久郡バレーボール大会を開催した。また、44年には南佐久郡陸上競技大会(臼田町優勝)が第20回記念の大会を佐久中学校庭で開催するにいたり、54年には第30回記念大会(臼田町優勝)が行われ、住民に定着した大会になった。同じように、46年11月3日に第20回を数えた南佐久郡駅伝大会(小海町優勝)も息の長い大会であった。

同年7月第1回南佐久郡軟式野球選手権大会(佐久町優勝)が開催され、48年には第1回南佐久郡ママさんバレーボール大会が始まって、スポーツ熱はますます高まったのである。この年10月、松本市で開催された第1回の長野県民運動競技大会では、佐久ブロックが優勝し、平素の成果をあげたのである。

50年11月には、体育スポーツの発展に努力したとして、臼田町体育協会が優良体育団体として、文部大臣表彰を受賞した。

52年10月第1回南佐久ソフトボール大会(臼田ソフトボールクラブ優勝)を開催し、54年9月には、第1回南佐久郡少年野球大会(臼田町竜岡クラブ優勝)、11月に

は第1回南佐久郡ゲートボール大会(小海町優勝)が開催され、現在は傘下の町村、老若男女皆スポーツに親しみエンジョイする姿がみられるのである。前記大会は、現在ではいずれも40回を超える、地域に定着した大会となっている。

4 課題と展望

本郡体育協会の運営は、現況で問題点を抱えている。組織構成、予算財政面、指導者、リーダー不足が悩みである。

今後の展望の中で、組織の見直し、特に町村単位体育協会の育成と強化、各種競技団体への自主的活動の推進と強化を行うことが必要である。

また、昨今は新型コロナウイルス感染症対策として、各種活動、大会を見送った経過もある。コロナ禍により活動に制限がかかる中、郡体育協会内の各種所属団体においては、郡体育協会の目的である体位向上と健全な社会体育の振興、社会文化の向上のために日々苦慮されている。なかなかコロナ禍の終息が見えない中ではあるが、指導者等の養成と育成を単位町村体育協会及び競技団体において充実強化をはかり、地域における健康づくり、そしてスポーツ活動を通じた、青少年健全育成の推進を併せて行っていきたい。

北佐久郡スポーツ協会

北佐久郡は、北に浅間山、南に立科山があり小諸市と佐久市によって東西に二分された郡である。発足当時の資料が全くなく記述できないが、発足は昭和24年とされている。東に軽井沢町、御代田町、西には立科町、望月町、浅科村、北御牧村の6カ町村で構成されていたが、平成16年4月1日には北御牧村が東部町と合併(現東御市)、平成17年4月1日には、望月町、浅科村が佐久市へ合併により、解散となった。平成19年から軽井沢町、御代田町、立科町の3町で新たに長野県体育協会に加盟し、現在に至っている。

現在の活動状況

主な活動は、目的をともにする各町(軽井沢町、御代田町、立科町)の協会にてそれぞれ活発に推進している。

会長

直井 幸男(北御牧村)	昭和35年～42年7月
成沢 保雄(望月町)	昭和42年8月～53年
柳澤 薫(御代田町)	昭和54年～58年
佐藤 好一(軽井沢町)	昭和59年
新井 芳次(軽井沢町)	昭和60年

佐々木光雄(北御牧村)	昭和61年～62年
小林 勇(望月町)	昭和63年～平成元年
工藤 周一(浅科村)	平成2年～3年
中島 正恵(立科町)	平成4年～5年
柳澤 敏一(御代田町)	平成6年～7年
細江 幸俊(軽井沢町)	平成8年～9年
中村 元(北御牧村)	平成10年～11年
土屋東一郎(望月町)	平成12年～13年
町田 幹昌(浅科村)	平成14年
丸山 俊雄(浅科村)	平成15年
宮下 健一(立科町)	平成16年～17年
高山 昌雄(御代田町)	平成19年～23年
尾台 栄一(御代田町)	平成24年～令和元年
荻原 謙一(御代田町)	令和2年～

小県郡体育協会

1. 発足までの経過

昭和35年4月1日、4年後の東京オリンピック開催にあたり、地域の体育振興、奨励、住民体位の向上、競技技術の向上ならびにアマチュアスポーツ精神の高揚をはかるため、町村および町村公民館が主体となり設立した。

2. 現在の活動状況

平成17年度に旧丸子町、旧東部町、旧真田町、旧武石村が上田市と合併したことにより、小県郡体育協会に所属する町村は、青木村と長和町（平成17年度に旧長門町と旧和田村が合併）の2町村となった。それ以降については、小県郡体育協会としての活動はなく、青木村体育協会と長和町体育協会のそれぞれで活動を行っている。

3. 長和町体育協会における現在の活動状況

平成17年度の旧長門町と旧和田村の合併により長和町体育協会として活動を開始した。平成17年度より現在まで当協会の会長は、バレーボール協会の両角晃一氏が務めている。現在は、14団体、会員数389名（令和2年度時点）の方が当協会に所属している。所属団体名・活動内容については下記のとおりである。

団体名	活動内容
長門町 バレーボール協会	現在活動休止中。
長和町 ゲートボール協会	古町・長久保・大門・和田の4支部に分かれて活動。4支部交流大会を開催。
長和町 ソフトテニスクラブ	毎週木曜日に活動。朝日新聞杯に参加。依田窪南部中学校の生徒と合同練習を実施。
長門スキークラブ	年に数回定例会・総会を開催。当町のジュニアスキー教室及び小学校スキー教室に指導者として参加。
長和町 ソフトボールクラブ	毎週水曜日と日曜日に活動。全日本一般ソフトボール大会長野県大会等の大会に参加。
ソフトバレーボール 連盟	現在、活動休止中。
長和町ビーチボール バレークラブ	毎週水曜日に活動。
長和町グラウンド ゴルフ愛好会	毎週水曜日に活動。夏と秋に大会を開催。
ロングゲート (バドミントン)	毎週金曜日に活動。
和田スキークラブ	現在、活動休止中。
長和町マレットゴルフ クラブ	4月～11月にかけて長和マレットゴルフ協会春季大会等年間を各種大会に参加。
和田愛球会 (マレットゴルフ)	月に1回定例会を開催。交流試合に参加。
長和町ゴルフクラブ	東信地区地区対抗ゴルフ大会等の大会に参加。
太極拳	毎週火曜日に活動。諏訪市で開催される交流演武会に参加。日々の練習の成果を当町の文化祭において発表している。

4. 青木村体育協会における現在の活動状況

青木村では現在、スポーツ（体育）協会として独自の活動は行っておらず、スポーツ推進委員会の活動の一部として活動を行っている。

スポーツ推進委員会の委員数は、令和元年：10名、令和2年：10名、令和3年：11名となっている。

活動内容は、村内外におけるスポーツイベント等のスタッフ・インストラクターとしての活動が主である。

5. 主な活動イベント

スポーツ推進委員としての活動イベントは以下のとおり。

- 義民の里を走ろうマラソン大会（4月上旬実施）
- 春季ニュースポーツ祭（4月下旬実施）
- 青木村プールまつり（7月下旬実施）
- 村民体育祭（10月上旬実施）
- 秋季ニュースポーツ祭（10月中旬実施）
- スキー・スノーボード教室（1月中旬実施）
- スポーツレクリエーション祭（上田地域広域連合、スポーツレクリエーション祭実行委員会の主催で、年4回実施）

近年は新型コロナウイルスの感染が拡大している影響もあり、実施できていないイベントが多く、例年通りの活動が出来ていないというのが現状であるが、村内外問わず、開催されたイベントでは精力的にイベントの準備・補助等を行っている。また各イベントを通して、推進委員同士の繋がりも深められている。

6. 組織形成と役員

(1) 組織形成

青木村スポーツ推進委員会は基本的には10名（場合によっては人数が増減する可能性もあり）で構成され、村内に住む方々に対して募集・依頼を行い、年度初めに委嘱をする。

任期は2年としている。



(2) 近年の役員

○会長

西澤 明（平成21年～26年）

清水 正夫（平成27年～現在）

○副会長

清水 正夫（平成21年～26年）

北村 尚久（平成27年～現在）

7. 今後の課題

今後の課題の1つとして挙げられるのは、若い世代の委員数増加への促進・スムーズな世代交代である。委員の平均年齢が高まりつつある中で、比較的若い年齢層の方々の委員数を増やしていくことが、スムーズな世代交代を進めていくために大変重要になってくる。

諏訪郡スポーツ協会

● 沿革とあゆみ

諏訪郡スポーツ協会は、下諏訪町・富士見町・原村の諏訪郡3町村スポーツ協会が構成している団体である。

昭和46年の長野国体招致の動きの中、長野県体育協会が行った、県内の未組織・未加入郡市体育団体の解消の呼びかけに応じる形で、下諏訪町を中心として、富士見町、原村の2町1村で諏訪郡体育協会創立準備会が発足し、昭和49年3月には下諏訪町体育協会が県体協加入を目的に準備会を開催、この結果を受けて、5月30日に下諏訪町、富士見町、原村の体育協会役員が集合し、規約の制定ほか創立に必要な事項を審議し、「諏訪郡体育協会」が創立された。

諏訪郡体育協会は2年ごとに構成3町村で会長を持ち回り、年2回以上の会議を行うこととし、毎年春と秋の2回に開催している。

毎年の会議においては、長野県スポーツ（体育）協会によるスポーツ振興事業補助金や、長野県スポーツ振興功績者表彰等についてのほか、諏訪郡は下諏訪町と富士見町、原村が地理的に分離しているため、協会主催事業を開催する上で不便があることから、自主事業開催に代わり、各スポーツ協会が抱える課題などを持ち寄り、協議を行った結果を構成3町村スポーツ協会にフィードバックして、それぞれの活動の発展に寄与している。

その後、組織の強化や法人格取得を目的に、平成15年には下諏訪町体育協会と富士見町体育協会がそれぞれ特定非営利活動法人化した。

平成23年に、昭和36年に制定された「スポーツ振興法」が約50年ぶりに全部改正されて「スポーツ基本法」が制定されたことにより、各体育協会の名称を「スポーツ協会」に改称する動きが広まり、下諏訪町体育協会は平成30年7月に名称を「下諏訪町スポーツ協会」に、原村体育協会は令和元年5月に名称を「原村スポーツ協会」にそれぞれ改称した。また、富士見町スポーツ協会は令和元年7月に名称を「富士見町スポーツ協会」に改称することが決定された。

構成3町村体育協会の名称がすべて「スポーツ協会」に改称されることが決まった後、令和元年6月の諏訪郡

体育協会総会において、名称を「諏訪郡スポーツ協会」に改称することが決定され、以後、諏訪郡スポーツ協会の名称で活動を継続している。

● 構成団体の活動紹介

・ 下諏訪町スポーツ協会



毎年10月の体育の日に合わせて、町とともに「町民スポーツ祭」を開催している。写真は、平成30年の下諏訪町町制施行125周年に合わせた記念行事として、元オリンピック選手の高橋千恵美さんを招き、ランニング教室を開催した際の様子。

・ 富士見町スポーツ協会



平成16年に第1回大会が開催された「富士見高原全国八ヶ岳クロスカントリー大会」を共催している。一般から小学生の部に加え、ファミリーの部も用意されており、富士見高原の林間コースを駆け抜ける。

・原村スポーツ協会



毎年8月に原村スポーツ協会主催の「穂屋祭体育大会」を開催している。写真は、令和元年8月大会のバスケットボール競技の様子。

●歴代会長（昭和62年以降）

細川 三夫（富士見）	昭和62年4月～平成元年3月
五味 勇吉（原）	平成元年4月～平成3年3月
橋詰 義一（下諏訪）	平成3年4月～平成5年3月
細川 三夫（富士見）	平成5年4月～平成7年3月
由沢 文夫（原）	平成7年4月～平成9年3月
小林 悦雄（下諏訪）	平成9年4月～平成11年3月
葛城 嘉光（富士見）	平成11年4月～平成13年3月
秋山 長雄（原）	平成13年4月～平成15年3月
石澤 正憲（下諏訪）	平成15年4月～平成17年3月
葛城 嘉光（富士見）	平成17年4月～平成19年3月
日達 徳吉（原）	平成19年4月～平成21年3月
大野 栄作（下諏訪）	平成21年4月～平成23年3月
河西元太郎（富士見）	平成23年4月～平成25年3月
日達 徳吉（原）	平成25年4月～平成26年3月
小林 公賢（原）	平成26年4月～平成27年3月
高木 常吉（下諏訪）	平成27年4月～平成29年3月
森山 高志（富士見）	平成29年4月～平成31年3月
百瀬 嘉徳（原）	平成31年4月～令和3年3月

上伊那郡体育協会

1 上伊那郡体育協会の沿革

上伊那郡は西の中央アルプス、東の南アルプスに挟まれ、天竜川が中央を流れる伊那盆地に位置している。

昭和59年4月に高遠町、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、長谷村の8町村で構成された上伊那郡体育協会は平成18年3月31日に高遠町と長谷村が伊那市と合併したことに伴い、現在は6町村で構成されている。

会長、副会長は町村長が勤め、事務局は会長の属する町村が行っている。任期は1年。

○会長

白鳥政徳（箕輪町）	平成27年4月～平成28年3月
下平洋一（飯島町）	平成28年4月～平成29年3月
唐木一直（南箕輪村）	平成29年4月～平成30年3月
宮下健彦（中川村）	平成30年4月～平成31年3月
小田切康彦（宮田村）	平成31年4月～令和2年3月
武居保男（辰野町）	令和2年4月～令和3年3月
白鳥政徳（箕輪町）	令和3年4月～現在

現在、上伊那郡体育協会による事業は行われていない現状である。各種大会や競技振興は伊那市、駒ヶ根市を加えた上伊那地域の各競技団体を中心となり、ソフトボール・卓球・バレーボール・ソフトテニス・陸上競技・スキー等幅広い種目が活動している。上伊那地域のス



ポーツ振興などを目的とした、上伊那スポーツ振興協議会（上伊那地域8市町村、総合型地域スポーツクラブ等で構成）が組織され、市町村スポーツ推進委員が運営する「ニコニコブース」、総合型地域スポーツクラブが運営する「キラキラブース」、競技団体が運営する「バリバリブース」を上伊那スポーツフェスティバルとして開

催するなど、地域での活動が行われている状況である。

構成町村においては、各町村でスポーツ推進委員と共に、

辰野町では、荒神山スポーツ公園やたつの未来館アラパを中心に各種スポーツイベント・大会等の開催している。

箕輪町では、天竜川が作り出した河岸段丘の高台から見下ろす夜景を楽しむ田舎では珍しいナイトウォークイベント等を開催している。

飯島町では、ニュースポーツ普及を推進しており、囲碁ボール大会を毎年開催し、年齢を問わず多くの参加者があり盛り上がりを見せている。



南箕輪村では、NPO法人南箕輪わくわくクラブを中心とし、スポーツや文化に親しみながら地域づくりをしている。

宮田村は隔年開催の村民運動会を開催しており、毎回1,000人以上が参加する一大イベントとなっており、住民がスポーツを通じ交流している。

中川村では、毎年お盆休み近くに「中川村バレー祭」を開催し、地区・世代を超えた交流・親睦を深める絶好の機会となっている。公民館体育部が運営し、40チーム、800人以上が参加し、令和4年度には第30回を迎える。

等、スポーツ振興に取り組んでいる。

南箕輪村ではVリーグ（バレーボール）VC長野トライデントの本拠地として、また、プロ野球独立リーグベースボールチャレンジリーグ信濃グランセローズのキャンプ地として、箕輪町はJリーグ（サッカー）松本山雅FCのホームタウンとしてプロスポーツとのかかわりも深い。

令和10年度に予定されている第82回国民スポーツ大会においては、辰野町でクレ射撃競技、箕輪町でフェンシング競技、飯島町でホッケー競技開催に向け、準備を行っている状況である。

下伊那郡体育協会

下伊那郡体育協会は令和元年度（2019年度）に40周年を迎えました。本会のあゆみを、各周年記念誌をもとにふり返りました。



1 設立までの経過

〔昭和55年（1981年）設立〕

設立以前、飯伊地区における住民の体育・スポーツ活動は、飯田市体育協会（現：飯田市スポーツ協会）が30余年にわたって活動をリードしてきた。各競技団体の活動についても、飯田市と下伊那郡が一つになって「飯伊陸上競技協会」のように、“飯伊地区”で組織し活動する団体が多くあった。

そうした状況下、当時の長野県体育協会からは、郡市においてそれぞれに体育協会組織をつくるよう要請があり、下伊那郡体育協会設立に向けた協議会が開催され、様々な障壁を乗り越え努力の末、設立の運びとなった。

〔設立までの概略〕

- ・昭和50年4月1日
飯伊地区体育協会等連絡協議会設立
- ・昭和55年1月22日

下伊那郡町村会長へ下伊那郡体育協会設立について陳情

- ・昭和55年7月4日
下伊那郡体育協会設立総会を開催
- ・昭和55年12月26日
長野県体育協会に加盟承認される

2 設立当時の様子

昭和53年（1978年）のやまびこ国体が終わって社会体育が急速に発展していく中、下伊那郡体育協会は設立された。当時、体育協会が未設置の町村は9村あったが、公民館の体育部組織での加入を認め、郡下19町村が一応まとまった形で体育協会はスタートした。

組織づくりや財政基盤の面では、町村会の指導援助を願い諸行事の遂行にあたった。設立当初は、公民館活動の体育部事業と体育協会事業が重複するなどして運営上の問題が起きた。また、競技団体については既にあった“飯伊地区”で組織する団体も残っていたことで、競技者は双方の体育協会に加入して活動する等の混乱も起こった。しかし、そうした諸問題も月日が経過するにつれて各町村の理解も深まり、徐々に下伊那郡体育協会として独自の活動が可能な組織となっていった。

3 10周年記念誌より〔平成元（1989）年度〕

「郡体協 設立までの経緯を振り返って」

鈴木 将敏 初代理事長

郡体協の設立には非常に強い抵抗があり、厳しい歩みであったように感じております。

昭和53年後半より54年度には設立委員会が幾度となく開かれるも結論が出ず、暗礁に乗り上げた事もありました。

当時21町村がバラバラで、作業は難航し、「何も郡体協をつくらなくても」と消極的町村が数多く、公民館体育部が肩代わりするのが殆どでした。それに財源もなく役員会及び会議も旅費の支給すら不可能なことが多くてすべて自費で、大会も会場開催地の地元負担が多く、正式な下部組織のある町村は9町村でスタートしたと記憶しています。事務局共々に役員が毎年市町村を訪問し、粘り強い説得運動を展開し、強力に体協作りを請願し説得に努めました。

10周年記念誌発刊に当たり、郡下関係者の皆様の理解に感謝し発展した事に心から御礼を申し上げる次第であります。（一部抜粋）



第1回全国健康福祉祭に県代表として出場の「豊丘シルバー」チーム（ねんりんピック88兵庫大会）

4 20周年記念誌より〔平成11（1999）年度〕

「創立20周年にあたって」

松島 貞治 会長（当時）

私もスポーツというか武道というか「弓道」に長く取り組んでおります。初段に合格したのが昭和51年ですから、すでに20周年を経過しております。動きの少ないスポーツで、はたから見ていると何が面白いんだろうと感じると思いますが、あの動かぬ的に動かされる私自身の心の弱さを何とかできないものか。また、弓道という競技、引き分けはありません。相手より一本多く当てなければ勝てません、逆にいえば、外さなければ負け

ません。心の弱さが克服できず、一本足りずに何回も涙をのみました。しかし、たまにうまくいった時の味が忘れられず、つい20年以上経ってしまいました。いまでも時間をみつめて的に向かいますが、なぜ忙しい仕事の合間をぬってスポーツをやるのか。私の弓の先生は、「仕事以外の実益もない、一見無駄に見える、たかが弓道に時間をかける、つまり仕事以外の世界をもつことが人間の幅を広くする」という表現をされました。

あえて無駄な時間という表現をしましたが、本当はこの時間こそが「考える」「創造する」といった人間にしか与えられていない能力を発揮できるのであり、人間として生きる証の時間だと思えるようになりました。（一部抜粋）

5 30周年記念誌より〔平成21（2009）年度〕

「30年のあゆみ」

塩沢 清治 理事長（当時）

かつては、人生において「スポーツをする」時期というのは、ごく限られた年代の時期にしか行われなかったように捉えられていましたが、実際にはそうでないように思います。

例えば、乳児期においてはハイハイをすることや家族との触れ合いという行為そのものが全身を使います。そのこと自体をスポーツとは呼びませんが、体を動かす「運動」という意味ではスポーツに関わっていると言うことができます。また、10歳未満ぐらいでは、友達との触れ合いなども増し、楽しみながら知らず知らずのうちに身体を動かし、また、地域の野球クラブやサッカークラブなどに所属する子どもも出始め、自らの意志でスポーツを始めます。

個人によってスポーツをする目的は様々です。ライフステージに応じたスポーツへの取り組み方があるとともに、これまでスポーツを行っていなかった人々にとっても「スポーツとの出会い」は、どの年代にもあると思います。今の時代、スポーツには、運動能力の高い人たちだけでなく、様々な目的のもとで、子どもからお年寄りまで、多くの人々が関われるようになりました。

この下伊那郡体育協会は、飯田市体育協会と協力して、この飯田下伊那地域の生涯スポーツ振興をさらに推し進めていって欲しいと考えます。（一部抜粋）



6 40周年記念誌より〔令和元（2019）年度〕 「挨拶」

市瀬 直史 会長（当時）（現：喬木村長）

下伊那郡体育協会は、長野県でやまびこ国体が開催された2年後の昭和55年に設立されました。やまびこ国体では、長野県選手団の大活躍もあり、長野県全体のスポーツ振興に対する機運が高まりました。飯田下伊那では、飯田市総合運動場にてラグビー競技が開催され、郡市一体となって大会を盛り上げました。その後も、長野県各地で健康体力づくりへの関心が高まり、生涯スポーツが急速に発展してきました。

先のラグビーワールドカップでも証明されましたが、スポーツは、する者、観る者、それを支える者に勇気と感動をもたらす社会全体を明るく活気づけてくれます。健康の保持増進はもちろん人生を豊かで実りあるものに

する力があります。そうした意味でも、当協会が今後果たすべき役割の大きさを強く感じる次第であります。（一部抜粋）



木曽郡体育協会

木曽郡体育協会では、郡民の健全な発展と明るく豊かな郡民生活をおくることを目的に、木曽郡内19競技の加盟団体と6町村体育協会にて構成し体育・スポーツ活動の推進をはかっています。

特徴的な活動のひとつに、木曽郡総合体育大会があります。この大会は令和3年現在で69回目を数え、19種目の競技団体が主管となり開催し、子どもから大人まで多くの年齢層の皆さんがそれぞれの競技に参加をしています。

かつてこの大会は「町村対抗」の名称にて運営され、各競技種目に得点を付け、その年々の町村の順位を競って行われていましたが、郡内の人口減少を踏まえ、近年では、近隣町村の合同チームでの参加や企業としてのチーム参加などスポーツ活動の継続のために様々な工夫を凝らして大会を運営しています。

そのような木曽郡内のスポーツ活動をより充実させていくために適時、理事会等を開催し、各部や各町村での活動状況や諸課題を討議したり、さらには、救急法や指導法の研修会も行い、安全かつ楽しいスポーツ活動を推進すべく取り組んでいます。

（沿革／あゆみ）

■昭和63年～平成10年頃

全国的な生涯学習社会の波及により、木曽郡内においても公民館を主体に講座やサークル活動が活発になり、かつて行われていた競技スポーツとあわせ、地域の住民どうしが楽しく触れあうレクリエーション的なスポーツ活動も盛んになっていきました。

こうしたスポーツ活動のニーズに併せ、木曽郡内町営各地に屋内プールが建設されるなど、スポーツ施設の充実化が図られた時期でもありました。



木曽郡総合体育大会での選手宣誓

さらには平成4年度からの学校週2日制の導入により、児童生徒のスポーツ活動の機会も増えていき、木曽郡内各町村の体育協会にスポーツ少年団が発足し、次世代を担う青少年へのスポーツ指導も盛んに行われることと同時に、子どもたちにどのようにスポーツを指導していくか、その指導方法についても本会理事会等で盛んに議論されました。

■平成11年～平成20年頃

木曽郡内におけるスポーツ活動の活性化に伴い、スポーツ予算の増額を求める要望も多くなってきました。そうした中、平成11年の木曽広域連合発足に伴い、木曽地域全体のスポーツ振興を図るべく、財政的支援により、今まで以上に安定した組織運営とスポーツ活動の活性化を図ることができ、町村対抗大会等多くの郡民の皆さんの参加をいただきました。

そうした中、平成17年の「平成の大合併」に伴い、か

つての木曽郡11町村が6町村に統合となり、木曽郡体育協会の組織体制も大きく変わることとなりました。また、従来行われていた「町村対抗大会」も「総合体育大会」の名称に変わったのもこの時期ですが、木曽郡でスポーツ活動の推進は継続され、競技趣向スポーツや親睦交流を兼ねたスポーツへ、さらには、健康を考慮したスポーツ活動へと幅が広がっていきました。

■平成21年～平成25年頃

平成20年からの10年間は、長野県内にスポーツに関するあらゆる振興計画が策定され、木曽郡体育協会におけるスポーツ活動も地域や学校と連携した活動が一層推進されました。

平成20年に長野県スポーツ振興計画が策定され、スポーツ活動における新たな方向性が見いだされました。その一方で、持続性のある組織運営が全国的な課題となっており、全国においてスポーツ運営の在り方が問われた時期でもありました。その代表的な方策として、地域住民主体の自主運営を趣旨とした『総合型地域スポーツクラブ』が謳われるようになりました。

人口の少ない木曽郡内において、体育協会と総合型スポーツクラブの組織が両立することで人の奪い合いになるのではないかといった声も上げられました。各町村の体育協会を中心に議論が重ねられ、両者の特色を出し合い、協調していく組織運営の方向性が見出されました。その成果として、地域に根付いたスポーツ活動が展開され、陸上やスキー、サッカー、バドミントンなど多くの競技団体において、全国で活躍している選手を木曽から多く産み出すことができました。現在、大相撲で活躍している御嶽海関もそのひとりであります。

■平成26年～令和3年 ～将来展望～

平成26年には長野県中学校運動部活動指針が示されました。

学校の部活動に地域の人材を多く活用し、学校・地域ともに活性化を図るこれらの計画に地域スポーツへの期待がより高まり、木曽郡体育協会所属の部においても、中学校運動部活動への指導を定期的に行ったり、中学生を対象とした教室を開催するなど、次世代育成のための活動も行ってきました。

そうした中、現在、木曽郡内は人口減少や少子化の問題が顕著となっており、とりわけ団体競技における活動に苦慮していることは否めません。

また、新型コロナウイルス感染の拡大は、活動そのものの自粛など、スポーツ活動推進に大きく影響を受けました。

令和に入り、様々な諸課題が山積していますが、第2次長野県スポーツ推進計画の基本である「青少年におけるスポーツ活動の充実化」「生涯を通じたスポーツ活動推進」「全国で活躍する人材育成」「スポーツの多面的活用」の目的を達成すべく新たな方向性を協議し推進を図っていききたいと考えています。特に、今後は、次の木曽を支え担っていく、青少年を対象とした人材育成に力を入れながら、世代間交流を兼ね備えた活動を進めていきたいと考えています。



木曽郡総合体育大会開会式に集まった選手の皆さん

北安曇郡スポーツ協会

北安曇郡は長野県北西部に位置する大町市・池田町・松川村・八坂村・美麻村・白馬村・小谷村の1市1町5村であったが、平成18年1月に大町市・八坂村・美麻村が合併し新しい大町市が誕生した。現在は大町市・池田町・松川村・白馬村・小谷村の1市1町3村からなる地域である。北安曇郡スポーツ協会は池田町・松川村・白馬村・小谷村で構成されている。

長野県体育協会から長野県スポーツ協会に変更になった事に伴い池田町・松川村・白馬村・小谷村の体育協会も令和3年にスポーツ協会と名称変更し郡旗を作成。



【毎年実施されている行事】

○北安曇郡春季スポーツ祭

- ・野球・ソフトボール・ママさんバレーボール
62年目を迎える。

○大北縦断駅伝大会

小谷村発～池田町間、池田町発～小谷村間と毎年交互に行っている。

今年で71年目を迎えましたが、令和2年度から3年度はコロナウイルス感染症防止の為に中止となる。

○大北スポーツ競技会

- ・ソフトテニス・ミニテニス・ソフトボール・ソフトバレーボール・卓球・マレットゴルフ・ゲートボール・グラウンドゴルフ・剣道・柔道・陸上

○北安曇郡町村対抗ゴルフ大会

安曇野カントリークラブにて各町村10名選出し40名にて競う。

○北安曇郡秋季スポーツ祭（マレットゴルフ）

4名4チーム各町村より選出し64名にて競う。

○長野県縦断駅伝大会に参加など

【町村体育・スポーツ協会の活動状況】

松川村

松川村スポーツ協会は平成4年「健康で明るい村づくり」をめざして18団体、会員数1,200人で発足しました。現在は、17団体、会員数762人です。

事業としては、会員のスポーツに対する意識の高揚を図ることを目的に、初年度から国内のトップアスリートを招き講演会を企画。また、各種スポーツ講習会・村民ゴルフ大会・村民マレットゴルフ大会を開催。加盟団体の協力でゴルフ・ママさんバレーボール・マレットゴルフ・ソフトテニスなど各種体験教室を毎年開催。また加盟団体開催のマラソン大会・ソフトバレーボール大会等各種大会の共催・後援の協力を行っています。

そして、毎年4月の総会では社会体育・スポーツ振興功績者表彰者を行ない多くの方を表彰しています。

池田町

平成元年当時17団体で構成していた体育協会が、20年の歴史を刻む中で組織も充実し平成23年には20団体会員数660名に増えました。しかし、スポーツの多様化また少子・高齢化により令和3年では19団体490名の会員数に減少してきており、クラブ団体の継続と充実が課題となっています。

スポーツ協会は、会員や町民の競技力向上、体力づくりという面で町のスポーツ振興に大きく貢献し、過去にはママさんバレーボールクラブ、ソフトボールクラブは全国大会に出場を果たし多くの会員が活躍をしています。

また町民のスポーツ振興を図るためニュースポーツの普及、マラソンオリンピック選手の中山竹通選手の活躍もあったことから、多くの町民が参加できる池田ハーフ

マラソンの企画運営にも携わりハーフマラソン大会を立ち上げております。

近年は総合型地域スポーツクラブ「大かえで倶楽部」と協力して、町の総合的なスポーツ振興にも関わっています。

白馬村

白馬村スポーツ協会は令和3年4月に白馬村体育協会から白馬村スポーツ協会へと名称変更をし、現在は陸上競技協会などの「競技スポーツ団体」、サッカーのアラグランデFCなどの「スポーツ少年団」、ジュニア運動プログラムなどを行う「スポーツクラブ」からなり、25団体、1,210名の会員により組織しています。

1998年2月・3月に、長野冬季オリンピック、パラリンピックを開催しました。

白馬村はジャンプ、クロスカントリー、ノルディック複合、アルペン（スーパー大回転、滑降、複合）の競技会場となりました。

白馬高校（当時3年）の上村愛子選手が、モーグル競技で7位入賞。その後のオリンピック4大会に出場し、バンクーバーとソチでは、自己最高の4位の成績を収めました。

また、長野オリンピック後にはノルディック複合の渡部暁斗選手が、2006年トリノオリンピックから平昌まで4大会連続して出場。ソチと平昌で2度銀メダルを獲得しました。その他にも多くのオリンピック・パラリンピック選手が誕生しています。

白馬村を訪れる外国人観光客が増加する中で、それに伴い白馬村に定住する外国人も増加し、スポーツ協会の各団体に所属する顔ぶれにも反映されてきています。

平成10年からオリンピックのクロスカントリー会場にて「スノーハープクロスカントリー大会」を開催し、アップダウンの激しいコースに、個人・駅伝の2種目を設け、毎年2千名を超える選手に参加をいただいています。

また、スノーハープはMTBコースとしても利用でき、平林安里選手や、北林力選手など、自転車競技世界選手権など世界で活躍できる選手も輩出しています。

これまでのウィンタースポーツ選手の活躍に加え、MTB競技、ダンスやバレー（踊り）、サッカーなどのクラブが盛んになるなど、スポーツの選択肢が増え、多様化してきています。

小谷村

小谷村では平成に活躍された女子クロスカントリーオリンピック選手猪又由美さんと女子ジャンプオリンピック選手山田優梨菜さんをご紹介します。

*猪又由美

昭和42年 小谷村で生まれる。

3歳からスキーを始め10歳からクロスカントリーに

転向。

白馬高校進学 国体2位、インターハイ5位

日本大学文理学部体育学科に入学 インカレ連覇強豪

北野建設スキー部に入社 旭川大会優勝

平成3年 札幌ユニバーシアード団体リレーアンカーを務め 銀

平成4年 アルペールビルオリンピック出場

その後引退。

現在は薬膳で「なりたい自分になるため」のサポート
ポールエクササイズ・整体・よもぎ蒸しなど幅広い指導にあたっている。

鍼灸の専門学校にも通い勉強中。

*山田優梨菜

平成8年 小谷村で生まれる。

6歳の時、ジャンプを経験し、「楽しい・もっと遠くに飛びたい」との思いがよぎり、小谷ジュニアスキークラブに入部。

白馬高校進学

平成26年 ソチオリンピック出場

早稲田大学に入学

その後膝の怪我の為、手術をしたが、引退を余儀なくされる。

大学院でキャリア形成について学ぶ。

現在はアスリートキャリア・一般の方々のキャリア支援を行っている。

小谷村としても今後のご活躍に期待していきたい。

坂城町体育協会

・昭和49年10月

スポーツを振興し、町民の体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、坂城町体育協会が設立される。

坂城町教育委員会内に事務局を置き、18種のスポーツ団体や連盟が集まり、体育協会を構成していた。

会長は町長の職にある者が就き、社会教育課（当時）が事務局を担い、各団体の代表者を理事に任命し、運営していた。

・平成12年5月

それまで、町長が会長を務め、教育委員会にて運営を行っていた体育協会を、会長を民間から選出し、運営についても教育委員会の職員から、体育協会に所属する者へと切り替え、発足当時からのスポーツ団体と新たに加入した団体の18団体で、任意団体として新たなスタートを切る。

・平成15年9月

坂城町と隣接する2町（戸倉町、上山田町）にて、埴科郡体育協会を組織し、独立した事務局を有し、郡体育協会としても3町で活動していたが、同年に、更埴市、戸倉町、上山田町が合併し、新たに千曲市となり、それに合わせて、更埴市、戸倉町、上山田町体育協会で、千曲市体育協会を新たに組織した。

そのため、埴科郡体育協会は坂城町体育協会の1団体のみとなった。

以降、坂城町体育協会は、町体育協会の活動と、郡体育協会としての活動を行ってきたが、1郡1町とい

うこともあり、平成19年に活動を一本化し、坂城町体育協会として現在に至る。

団体のあゆみ(昭和63年頃から令和3年3月までの期間)

坂城町体育協会では、設立当時、町内に活動拠点を有した18種のスポーツ団体でスタートしており、設立当時から、町民を対象とした各種大会を開催していました。

特に設立当時から町内で人気の高かった、「早起き野球」はシーズンを通して活動を行っており、「バレーボール」は、年間3～4回の大会を開催していました。

また、設立当時には、「すもう」や「綱引き」、「山岳」、「スキー」といった競技団体も加盟し、活動を行っていましたが、活動を維持していくだけの町内での競技人口を確保することができず、昭和63年までに5つの部が廃部となってしまいました。

その後、ニュースポーツの登場により、新たな競技団体が立ち上がり、体育協会に加盟されたり、高齢化や人口減少の余波を受け、存続が難しくなり廃部となった部があったりして、現在の構成団体は、14の団体となってしまいました。

現在では、高齢化と人口減少により、体育協会の構成員の人数も減少しており、各団体の運営も厳しくなっています。

平成12年に任意団体となった町体育協会は、所属する団体の活動を支援していくことはもちろん、体育協会全体の発展と活動の活性化を狙い、平成15年から、「体協祭」を開催しています。

体協祭は、体育協会に所属するスポーツ団体の競技をお互いに知ってもらおうと、それぞれの団体が大会や教室を開催し、会員相互の親睦を図っていました。

開催当初から続いている大会にマレットゴルフ大会があります。

マレットゴルフは町内でも愛好者が多く、毎年多くの方が参加される大会となっています。

また、町内には、千曲川の河川敷に、鼠橋運動公園マレットゴルフ場がありますが、マレットゴルフ協会がコース整備や草刈りをして、管理してくださっていますので、町内外からとても評判の良いコースとなっています。



第15回体協祭マレットゴルフ大会

太極拳教室も当初から続いています。健康維持のため、各公民館を使って、多くの方が取り組んでいます。

年に1度、外部から指導者を招いて、体協祭を開催しています。

このほかにも、ソフトバレーボールや、テニスなども、行っています。

また、町公民館の主催するソフトボール大会とビーチボール大会から、体育協会に審判の要請があり、各団体にて協力しています。



第14回体協祭太極拳教室



町公民館主催ソフトボール大会



町公民館主催ビーチボール大会

上高井郡体育協会

1 発足までの経過

敗戦の痛手はつらく、また、忘れられない苦しみでもあった。長かった戦争の苦しみを忘れるために、戦後の復興はスポーツでと言う気風が郡内に広がり、この気風は青年を中心に高まった。

まず組織づくりからと青年達は、協会設立に向け郡内をくまなく歩いた結果、昭和22年に設立をみたのである。

2 その後の歩み

発足当時は1町13村であった郡内には、体育協会未設

置の村が多かったが、その後次々に設立をし、郡体育協会へ加盟したのである。その後1町13村は町村合併促進法に基づき合併が進んだ。昭和48年に小布施町、昭和56年に高山村の体育協会が誕生し、現在に至っている。

3 現状の活動

小布施体育協会（バドミントン、卓球、ソフトテニス、ローンテニス、婦人バレーボール、ソフトボール、ゴルフ、ソフトバレー、ウォーキング、太極拳）以上10団体が加盟し約300名で活動している。

高山村体育協会（山岳会、ソフトボール、野球、バスケット、バドミントン、婦人バレーボール、卓球、ゲートボール、マレットゴルフ、太極拳）
以上10団体が加盟し約400名で活動している。

4 今後の課題

日本全体が高齢化社会となり、上高井郡体育協会の会員も従来の走って、跳んでのスポーツを苦手とする傾向がある。スポーツの内容を検討する時になっている。やるスポーツ 見るスポーツ 企画するスポーツ 等々スポーツに関連する事業に目を向けたい。

例えば小中学生に培ったノウハウを提供する。生徒数の減少や働き方改革が叫ばれている昨今、学校部活と共存しスポーツを通して地域の大人に、子供の健康で明るい社会を構築する担い手として私達の直面した課題と受け止めたい。

あなたに出来る事あなたに任せた

私に出来る事 私に任せろ

みんな出来る事違うから

5 上高井郡体育協会組織

小布施町体育協会、高山村体育協会のそれぞれの体育協会長、副会長、理事、評議員、監事、教育委員会の30名で構成している。

役員の任期は2年間として毎年度4月1日～翌年の3月31日としその担当協会の会長が上高井郡体育協会の会長を務める。一方の会長が副会長を務める。

6 総会及び事前会議

毎年4月に役員事前会議を招集し総会のあり方を協議する。総会は毎年5月に開催して年間行事を決定する。

7 令和3年度役員名簿（令和元年～3年）

顧問	桜井 昌季（小布施町長）
〃	内山 信行（高山村長）
〃	富岡 義仁（小布施町体育協会前会長）
〃	原 等・北澤宏之（高山村体育協会前会長）
会長（理事1）	関谷 明生（小布施町体育協会長）
副会長（理事1）	轟 三己夫（高山村体育協会長）
理事長	根津 照夫（小布施町体育協会）
副理事長	高橋 重光（高山村体育協会）
理事2号	市村 勝巳（小布施町公民館長）
〃	望月千恵子（高山村公民館長）
理事3号	根津 照夫（小布施町体育協会）
〃	飯田 岩雄（小布施町体育協会）
〃	涌井 昭一（小布施町体育協会）
〃	黒岩 優子（高山村体育協会）
評議員1号	小林 潔（小布施町スポ推委員長）
〃	霜方 大介（高山村スポ推委員長）
評議員2号	山崎 幸治（小布施町体育協会）
〃	黒岩 悟（高山村体育協会）

評議員3号	黒岩 隆三（高山村体育協会）
〃	土屋 和夫（小布施町体育協会）
監事	寺島 純夫（小布施町体育協会）
〃	藤澤まゆみ（高山村体育協会）
幹事	倉橋 明子（小布施町体育協会）
〃	深谷 照男（高山村体育協会）
	服部 優瞬（小布施町教育委員会）
	近藤 真弘（高山村教育委員会）

令和2年度はコロナ禍の為、行事が開催されなく小布施町体育協会が令和3年度も引き続き運営を担った。

8 上高井郡体育協会が展開するスポーツ

やるスポーツ 見るスポーツ 企画するスポーツ

①上高井郡体育協会球技大会、毎年300名の選手が4球技で親睦を図るイベントである。2年毎に担当が変わりそれぞれの趣向で絆を深める交流大会である。



②全国から参加する小布施ミニマラソン。

上高井郡体育協会とスポーツ少年団が、スポーツを通しておもてなしを体験する。スポーツならではの効果である。



④長野県縦断駅伝競走に上高井郡体育協会より選手を5名送り出し応援団を結成している。郷土の誇りを体験できる瞬間である。



③高山村ヒルクラム大会を上高井郡体育協会が応援する。応援を通して大人と小学生とが行動を共にする世代間交流である。



下高井郡スポーツ協会

1 沿革

下高井郡は長野県の東北端に位置し、上信越高原国立公園と千曲川に囲まれ、湯量豊かな温泉とスキーのメッカで知られる志賀高原、野沢温泉、またブナの原生林とニッコウシゲ咲きみだれる北ドブ湿原、自然休養林カヤの平を保有する山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の1町2村で構成されている。

2 協会の発足

下高井郡スポーツ協会は、昭和51年7月14日に山ノ内町体育協会、木島平村体育協会、野沢温泉村体育協会の3協会の加盟により下高井郡体育協会として発足し、続く翌年の昭和52年2月1日には長野県体育協会の加盟団体となった。発足当時、長野県はやまびこ国体を2年後に控えており、スポーツの普及とスポーツ人口の拡大に

注力している最中であつた。それに伴い、県や郡下の町村体育協会との連絡、協議のための連携組織の必要性が高まったことから、本協会は発足に至つた。その後、令和2年には設立以来使用してきた「下高井郡体育協会」から「下高井郡スポーツ協会」へ名称を変更した。

3 組織および事業

本協会は山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の各体育協会ならびにスポーツ協会で構成され、各協会の正副会長、理事等の代表で運営している。

発足当時、活動内容は縦横の連携と親睦のみであつたが、現在協会の主な事業として、令和3年で44回目となる下高井郡バレーボール大会、38回目となる下高井郡ソフトボール大会、30回目となる下高井郡女子ソフトボール大会、28回目となる下高井郡マレットゴルフ大会、27回目となる下高井郡ソフトバレーボール大会を開催し体育スポーツの振興にあたっている。

〔下高井郡スポーツ協会〕

◇主な事業

- ・下高井郡バレーボール大会
- ・下高井郡ソフトボール大会
- ・下高井郡女子ソフトボール大会
- ・下高井郡マレットゴルフ大会
- ・下高井郡ソフトバレーボール大会

◇予算規模

- ・令和3年度予算額 164,000円

◇役員（令和3年度）

- ・会 長 萩原 千春（野沢温泉村）
- ・副会長 高山 祐一（山ノ内町）
- ・ 〃 真淵 弘宣（木島平村）
- ・理 事 佐藤 史郎（野沢温泉村）
山口 辰也（山ノ内町）
竹鄭 信（木島平村）
- ・監 事 丸山 喜庸（山ノ内町）
小澤 和麻（木島平村）

〔山ノ内町体育協会〕

◇主な事業

- ・町長杯親善マレットゴルフ大会
- ・町長杯ソフトバレーボール大会
- ・町長杯争奪女子バレーボール大会
- ・町民ゴルフ大会
- ・町長杯ソフトテニス大会
- ・町長杯ソフトボール大会
- ・町長杯争奪硬式テニス大会（ダブルス）
- ・町長杯争奪卓球大会
- ・全信州弓道大会
- ・中高柔道選手権大会
- ・町ゲーゴルフ交流大会
- ・スポーツ吹矢フェスティバル

- ・スポーツ少年団軟式野球大会
- ・全日本公認甲信越ブロック連合中学校ユーススキー競技会兼志賀高原少年スキー大会
- ・各種スポーツ教室

◇予算規模

- ・令和3年度予算額 3,349,000円

◇加盟団体

- ・15団体

◇役員

- ・会 長 高山 祐一
- ・副会長 竹節 清 丸山 喜庸

〔木島平村スポーツ協会〕

◇主な事業

（協力事業）

- ・FIS・SAN公認木島平サマーノルディック大会
- ・村民スポーツフェスティバル
- ・村民運動会
- ・SAN公認木島平ジュニアジャンプ大会
- ・SAN公認木島平ジュニアクロスカントリー競技大会
- ・木島平ジュニア大回転スキー競技大会
- ・全日本小学生選抜クロスカントリー大会

（補助事業）

- ・ジュニアスポーツ選手育成補助金交付事業

◇予算規模

- ・令和3年度予算額 1,138,000円

◇加盟団体

- ・9団体

◇役員

- ・会 長 真淵 弘宣
- ・副会長 小澤 和麻

〔野沢温泉村体育協会〕

◇主な事業

- ・野沢温泉村ロードレース大会
- ・体育協会長杯マレットゴルフ大会
- ・体育協会長杯テニス大会



下高井郡バレーボール大会

- ・体育協会長杯剣道大会
- ・村民ゴルフ大会
- ・村内ナイターバレーボール大会

◇予算規模

- ・令和3年度予算額 1,843,000円

◇加盟団体

- ・6団体

◇役員

- ・会長 萩原 千春
- ・副会長 宮崎 大輔

4 役員

◇会長

- ・平成29年度～平成30年度
山ノ内町 渡辺 正男
- ・令和元年度～令和2年度
木島平村 芳澤 育男
- ・令和3年度～
野沢温泉村 萩原 千春



下高井郡ソフトボール大会

◇副会長

- ・平成29年度～平成30年度
木島平村 芳澤 育男
野沢温泉村 片桐 嘉幸
- ・令和元年度～令和2年度
野沢温泉村 片桐 嘉幸
山ノ内町 渡辺 正男
- ・令和3年度～
山ノ内町 高山 祐一
木島平村 真淵 弘宣

上水内郡スポーツ協会

1 沿革

昭和62年4月1日

昭和53年に発足した更水体育協会より更級郡の上山田町と大岡村が脱退（2町村は埴科郡体育協会になる）。上水内郡の9町村（信州新町・豊野町・信濃町・戸隠村・鬼無里村・中条村・三水村・牟礼村・小川村）のみに残ったため名称を上水内体育協会とする。

平成17年3月31日（平成16年度）

平成17年1月の豊野町・戸隠村・鬼無里村の長野市編入及び10月の牟礼村・三水村の合併を踏まえ上水内郡体育協会は解散

県体育協会からは脱退する。

平成17年4月

旧上水内郡体育協会代表者（旧上水内郡内9町村）により、各旧町村体育組織が主体となり競技大会を継続していくこととなる。

旧上水内郡内連絡会の形をとり郡単位での会議が必要な場合の幹事町村は初年度、牟礼村（10月からは飯綱町）となる。

平成17年11月25日

旧上水内郡内連絡会において新しい上水内郡体育協会として活動していく案が提出され、承認。

平成18年4月

上水内郡体育協会が郡内5町村で発足。

平成22年1月

信州新町・中条村が長野市へ編入したため上水内郡体育協会は3町村（信濃町・飯綱町・小川村）になる。

平成30年4月

上水内郡体育協会より上水内郡スポーツ協会に名称変更する。

2 その後のあゆみ

(1) 競技大会開催町村状況

昭和53年更水体育協会より始まり上水内郡体育協会として活動を続けていますが、上水内郡体育協会は市町村合併の平成17年3月31日に一度解散しており解散以前の記録がほとんど残っていないため詳しい活動は不明です。

平成17年の旧上水内郡内町村単位競技大会運営を経て平成18年に再度、上水内郡体育協会として活動を開始しています。

各町村のスポーツ団体が主管となっている競技大会においては更水体育協会当時より継続したものになっています。

各競技大会においては旧上水内郡として豊野町や戸隠村のスポーツ団体にも参加いただいています。

昭和53年第1回の大会を開催した男子バレーボール及び翌54年開始の女子バレーボール大会は平成23年に大会休止になりました。近年では、競技人口も減り大会中止や休止のスポーツが多くなっています。

平成26年度にはゲートボールの上水内支部大会（第48回）を上水内郡の事業として追加した。

令和2年度はコロナ禍ということもあって上水内郡主催の大会はすべて中止になってしまいました。

令和3年は第42回卓球大会（飯綱町）と第54回上水内支部ゲートボール大会（飯綱町）を行いました。

計画のあった第31回壮年ソフトボール及び第19回ソフトバレーボール大会はやむなく中止となりました。

(2) 組織

上水内郡体育協会は平成17年の市町村合併の際一度解散し平成18年になり再度発足。上水内郡の5町村の体育協会により組織されている。

町村持ち回りの当番町村内に事務局を置く形で会長は幹事町村の体育協会会長が務める。任期は2か年。

会長の他理事若干名（各町村体育協会会長）と監事2名により構成される。

平成22年からは信州新町・中条村が長野市へ編入したため、3町村（信濃町・飯綱町・小川村）での組織運営となる。

3町村になったため会長は幹事町村体育協会会長、理事2名は残りの町村体育協会会長とし、監事2名は理事選出町村の体育協会副会長とする。

(3) 役員 平成18年以降

○会長

小林元太郎	平成18年～平成20年
近藤 邦彦	平成21年～平成22年
松本 貴秀	平成23年～平成24年 平成29年～平成30年
風間 幸一	平成25年～平成26年 令和1年～令和2年
西澤登美男	平成27年～平成28年
島田 市夫	令和3年～現在

○理事

古山 定男	平成18年～平成21年
原山 文徳	平成18年
久保田正治	平成18年
戸谷 武彦	平成18年～平成21年
原 秀和	平成19年～平成20年
大日方輝人	平成19年～平成21年
松本 貴秀	平成22年・平成25年～平成28年
小林元太郎	平成22年～平成23年
金箱 弘	平成23年～平成24年
風間 幸一	平成24年・平成27年～平成30年 令和3年現在
服田 昭男	平成25年～平成26年
森野 佳宏	平成29年～平成30年
小林 和人	令和1年～令和2年
宮下 登	令和2年～現在

公益財団法人 長野市スポーツ協会

沿革

■はじまり（1926「大正15」年）

創立当初の長野市体育協会は、現在のように総合的なものではなく、野球場（のち、市営城山野球場「1947（昭和22）年7月10日完成、2000（平成12）年閉鎖」）建設を目的に、市内在住の関係者が主唱して組織された単一的な体育団体として第一歩を踏み出しました。

■長野市体育協会の創設（1947「昭和22」年4月1日）

戦後のスポーツ振興の力はめざましく、組織の確立と再編がなされ、名実ともに面々を一新した総合的な体育団体として13競技団体が参加し長野市体育協会が発足しました。

■市町村合併と体育協会

1954（昭和29）年（第1次昭和の大合併）、1966（昭和41）年（第2次昭和の大合併）の合併を機に大長野市の建設に万進するに及び、合併の体育関係者との連

絡を緊密にする必要性が認められ、規約改正を行い地区の代表も交えて全市的な体育活動の基盤として一段とスケールの大きい体育協会が組織され、市当局と密接な協力のもとに長野市の体育振興に努めてきました。

■財団法人長野市体育協会の設立（1991「平成3」年6月1日）

複雑多様化する社会環境のもとで、市民の健康に対する関心は強く、生活水準の向上や自由時間の増大と



あいまって、体育・スポーツへの欲求が高まり、特に1975（昭和50）年6月のスポーツ都市宣言、1976（昭和51）年の全国高校総合体育大会、1978（昭和53）年の長野国体開催などを契機として、この機運はますます高まりを見せました。毎年5月に開催される市民健康まつり、市民体育祭など各種スポーツ行事、スポーツ大会、スポーツ教室を開催し、体力・健康づくりの推進に始まり、競技力の強化に努めてきました。社会体育施設の整備についても行政と連携を図りながら、全国に誇りうる体育・スポーツ施設を確保してきました。また、長野市は、1986（昭和61）年から国指定のヘルスパイオニアタウン（健康づくり先進モデル都市）に選ばれ、健康増進の観点からますます体育・スポーツの必要性が望まれ、全ての市民のニーズに答えられる体制が必要となりうること、長野市体育協会が創設40周年を迎えるにあたり、組織を確固たるものとし、より一層体育・スポーツの振興を図るべく、また、オリンピック冬季大会を長野市へ招致するために、微力ながらも行政並びに関係団体と一体となり、招致に向け前進するためには、組織と財政の確立が急務であることから、種々調査、協議を重ね、任意団体である長野市体育協会を財団法人として、強力かつ広汎なスポーツ活動をする必要があるという結論に到達し、1991（平成3）年5月10日に、長野県教育委員会に設立許可の申請を行い、1991（平成3）年5月18日に許可を受け、1991（平成3）年6月1日に「財団法人長野市体育協会（加盟団体33）」が設立されました。

■長野オリンピック・パラリンピック等国際大会の開催

1998（平成10）年には、長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会、2005（平成17）年には、長野スペシャルオリンピックス（SO）冬季世界大会が開催され、その後、これを機に各種国際大会や長野マラソンなどのビッグイベントが継続的に開催されるようになり、また、スポーツと環境への取り組みやスポーツボランティアの活躍などのオリンピックムーブメントの推進など、多くのレガシーが引き継がれました。スポーツに対するかかわり方も、する・観る・支えると多種多様になり、長野市が掲げた“スポーツを軸としたまちづくり”の推進と共に、体育協会の果たす役割も多種多様かつ重要になってきました。

■長野市スポーツ推進計画と体育（スポーツ）協会

国においては、2000（平成12）年に“スポーツ振興基本計画”が策定（2006「平成18」年改定）され、新たな指針が示されました。また、2010（平成22）年に「新たなスポーツ文化の確立」を目指した“スポーツ立国戦略”が策定され、2011（平成23）年にスポーツ振興法（昭和36年制定）を全面改正し、“スポーツ基本法”が制定されました。

長野市においても、国のスポーツ振興政策を踏まえ、

市の基本施策である“スポーツを軸としたまちづくり”を基に、平成20年に“長野市スポーツ振興計画（計画期間：平成23年度まで）”が策定され、平成21年には、文化芸術及びスポーツの持つ「文化力」あふれるまちづくりの推進を目指して“文化芸術及びスポーツ振興による文化力あふれるまちづくり条例”が制定されました。

長野市スポーツ振興計画の計画期間満了により、平成24年に、新たな“長野市スポーツ推進計画（計画期間：平成28年度まで）”が策定され、その後、スポーツをさらに発展させていくため、計画期間が終了する“長野市スポーツ推進計画”を改訂し、平成29年に“第二次スポーツ推進計画（計画期間：平成33年度まで）”が策定されました。

長野市スポーツ協会は、“第二次長野市スポーツ推進計画”と連動するため、平成29年度から第二次4期（5ヶ年）となる“全国大会等出場選手強化基本構想プログラム”を策定し、市と連携や協力を強化することで、トップアスリートの育成、競技スポーツ人口の拡大や専門能力を持つ指導者の養成・確保において、重要な役割を担い、競技力の向上と底辺の拡大に努めています。

■公益財団法人長野市体育協会の設立（2013「平成25」年4月）

公益財団法人への移行に向け、専門委員会、理事会及び評議員会において協議を行い、平成24年10月15日の理事会において、公益財団法人の認定申請について決議し、2012（平成24）年11月に、長野県に移行認定の申請を行い、2013（平成25）年3月に長野県知事から認定を受け、2013（平成25）年4月1日から、公益財団法人へ移行し、「公益財団法人長野市体育協会（加盟団体46「内準加盟団体5」）」に変更しました。

■公益財団法人長野市スポーツ協会へ名称変更

（2016「平成28」年4月）

平成28年4月1日には、目的及び方針を明確に表す“スポーツ”の名称を取り入れ、法人名を「公益財団法人長野市スポーツ協会」に変更しました。



一般財団法人 松本市スポーツ協会

1 松本体育会の活動

大正15年、松本市に県営陸上競技場と野球場が建設されると共に、松本体育協会の前身である松本体育会の組織的な活動が始まり、松本地域の総合的体育団体の礎となった。



2 松本体育協会の設立

昭和6年4月3日、松本市とその周辺の13体育団体により松本体育協会を設立。会長には初代松本市長小里頼永が就任した。

3 組織の充実拡大

昭和13年5月、時の百瀬興政会長（松本市長）の提唱により、松本体育協会の組織充実が図られ、加盟団体は15団体となった。その後昭和19年頃から戦争が激しくなり、活動を一時停止せざるを得なくなった。

4 松本体育協会の再開

昭和21年、日本体育協会の再発足を契機に23体育団体により松本体育協会の活動を再開し、市民体育の普及育成に努めた。その後、教育委員会制度の施行とともに、松本体育協会は社会体育の指導的役割を果たすこととなる。また地区体育協会の活動も始まり、地区公民館、町会と協調しつつ地域のスポーツ振興の中心となり、市民スポーツの底辺をひろげる原動力となった。

5 地区体育協会の組織化と体協加盟

昭和29年に近隣13村の大合併があり、それに伴い合併各村の体育協会が加盟した。

その後昭和56年11月に、時の和合正治会長（松本市長）の提唱により、旧松本市の町会に地区体育協会の設立と組織化が呼びかけられ、順次市内29地区の町会に地区体育協会が設立され、全市民を対象とした体育指導と体力向上が図られることとなった。

6 松本市市民体育大会・松本市長杯争奪球技大会の開催

13村の大合併により松本市の財政は大きな赤字で地方財政再建団体に指定されていた。そこからの脱却を図るため、時の降旗徳弥市長（会長）が「松本第一主義」をかかげ、「品格ある都市」の建設を目指し、市民の固い団結と健康の向上を旨として、昭和33年に第1回市民体育祭が開催された。「多くの市民が参加する場を作り、老若男女が一体となって明日へのエネルギーを結集する」という旗印のもと、スポーツに多くの市民が結束し

市政への協力が図られ、赤字再建団体脱却のための大いなる力となった。その後、市内公共施設の整備が図られ体育施設が充実すると共に、スポーツに親しむ市民も年々増加し、令和3年には第64回をかぞえ、春夏秋冬延べ76種目約1万5千人が参加する総合体育大会となった。また昭和59年からは本郷地区との合併10周年記念として、松本市長杯争奪球技大会が開催され、令和3年には第38回をかぞえ、両大会はスポーツを通じたまちづくりにも大きく寄与している。

7 松本市スポーツ少年団の結成

昭和40年、松本市教育委員会の主導で松本体育協会に松本市スポーツ少年団本部が設置された。その後、地域のスポーツを通じた青少年の健全育成に励み、スポーツを楽しむだけでなく、清掃活動など社会活動を通じて社会のルールや協調性を学ぶことを主眼に活動を行い、現在は42単位団、団員1235人、指導者等279人を擁するスポーツ少年団となった。

8 松本体育協会の財団法人化

昭和53年のやまびこ国体を契機に市民のスポーツに対する熱意が高まり、松本体育協会に指導協力を求める多くの市民の声に応える必要があった。また、松本市から有人体育施設管理の要請もあり、受託者としての責任体制確立が求められ、これまでの任意団体の体制を強化すべく、昭和58年に財団法人化を実現、市民皆スポーツの掛け声のもとに、一層の組織強化が行われた。昭和60年の「音楽とスポーツ都市宣言」により、松本市と歩調を合わせて諸施策を推進している。

9 松本市市民スポーツ振興基金制度創設

昭和60年、松本市スポーツ振興基金創設のため、市民・民間企業から寄付金を募ると共に、松本市からの拠出金を加え1億円を超える基金が造成された。その運用益を加盟団体へ分配することにより、各種スポーツ大会やスポーツ教室が盛んに開催されている。現在利率の低下に伴い基金運用益は減少しているものの、松本市からの補助金を充て、スポーツ推進の大きな原動力となっている。令和2年には規程を全面改正し、加盟団体の組織維持強化と、中学生の地域部活動を見越した公認指導者養成を新たに加えている。

10 市民スポーツ教室の充実

昭和58年頃、松本市が開催していた市民向けスポーツ教室の一部が松本体育協会に移管された。その後、加盟団体と調整のうえ種目増と内容充実を図り、現在は年間23コースを開催し、市民が低料金で初心者も気軽にス

ポーツに参加できる事業として、そしてその成果を楽しめる市民体育大会の参加と合わせ好評を得ている。

11 生涯スポーツ推進の取り組み

平成11年から生涯スポーツ指導者養成講習会を年間15回程度開講し、地域住民にニュースポーツやレクリエーションの指導を行う人材を重点的に養成し、50人を超える指導者を登録した。令和2年には、生涯スポーツ指導者制度を施行し、行政や地域の要請に応じた指導者を紹介することで、レクリエーションスポーツの推進を行っている。また、県内のウォーキングコースを歩き温泉での食事を楽しむ「さわやかウォーキング」を毎年開催し、市民に運動する機会を提供している。

12 松本武道祭（まつり）の開催

平成19年、松本体育協会の加盟11武道団体により実行委員会を結成し、第1回松本武道祭を開催した。演武披露により日頃の鍛錬の成果を発表すると共に体験教室を行い、市民が武道に触れる機会を設け、武道普及の一端を担っている。平成24年からは12団体となり毎年開催している。

13 松本体育協会の一般財団法人化

国が主導する公益法人制度改革の施行に伴い、平成25年に法人格を一般財団法人に改め、スポーツ推進の基盤を強固にした。

14 松本市の基幹体育施設指定管理受託

地方自治体が主導する指定管理者制度の施行に伴い、共同体「ミズノ・松本体育協会グループ」を(株)美津濃と結成し、平成27年4月から松本市総合体育館を受託、利用者に視点を置いた管理運営に努めている。

15 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会主会場の誘致

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の主会場誘致活動を行い、令和10年には、昭和53年やまびこ国体に続き松本平広域公園陸上競技場が開閉会式を行う主会場となることが決定した。松本市内で行わ

れる種目として、前者は陸上競技、サッカー少年男子、バレーボール成年男子、自転車トラックレース、軟式野球、なぎなたが、後者は陸上競技、バレーボール（知的障がい）、サッカー（知的障がい）が内定している。

16 松本市スポーツ協会への名称変更

昭和39年の東京オリンピック開催以来、「スポーツ」の言葉が広く社会に浸透し、体育や身体活動の概念を含み幅広く表すものになってきた。社会のスポーツへの関心や期待が高まる中、スポーツを文化として定着・発展することを目指すと共に、より多くの市民がスポーツに参加することを促し次の世代へ継承していくためには、名称に「スポーツ」という言葉を掲げることが相応しいとし、令和2年6月26日に「松本体育協会」から「松本市スポーツ協会」に名称を変更した。

17 松本マラソンへの開催協力

平成29年、参加者1万人規模とする第1回松本マラソンが開催された。この時から、市民スポーツの推進と大会の成功に向け、加盟団体の協力を得て、200名前後のボランティア協力を行っている。

18 中信4市スポーツ協会・体育協会協議会の設立

令和2年7月30日、松本市・大町市・塩尻市・安曇野市のスポーツ協会及び体育協会は、中信地域における更なる体育・スポーツ・レクリエーション等の振興を図るため協議会を設立した。中信地区のスポーツ施設の充実を目指し、初回は長野県知事及び長野県教育長へ、第82回国民スポーツ大会主会場予定地である長野県松本平広域公園の体育館の全面改築及びビーチバレーボールコート新設の要望を全県的視野をもって行っている。

19 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年冬からの新型コロナウイルス感染症の世界的・爆発的な流行に伴い、スポーツ事業の多くをやむなく縮小・中止をせざるを得なかったが、開催に向けて日本スポーツ協会・各上部競技団体・国・県・市が示すスポーツイベント開催時の感染症対策ガイドライン等をもとに、競技主管団体と慎重協議の上、可能な限り開催をした。

一般財団法人 上田市体育協会

“生涯健幸 元気都市うえだ”を目指して！

合併からの飛躍へ

上田市体育協会の歴史は古く、昭和3年に当協会の前身である「上田體育会」を設立、第二次世界大戦の混乱の中、昭和17年に終止符をうち解散した。その後、終戦を迎え、混乱の世情の中で国民が虚脱状態になっていた

時、当市ではいち早くスポーツの振興を願い、あらゆる困難を排除してスポーツの興隆に立ちあがり、昭和21年に「上田市体育協会」を発足した。その後、野球・庭球・陸上・相撲をはじめ、新しい競技種目が次々に団体を形成し、当協会へ加盟するなど、スポーツを普及する様々な活動を進めてきた。昭和57年には、年々拡充される体

育施設の管理委託を見通し、岡谷市体育協会に次ぐ二番目の「財団法人」として、スポーツ振興事業のほかに、市民の森公園体育施設の管理運営などを新たに加え出発した。その後、平成4年に室内プールアクアプラザ上田、平成8年に上田古戦場公園などの施設管理を拡大してきた。平成18年3月には、上田市、丸子町、真田町、武石村の1市2町1村の合併があり、当協会としても各町村で活動していた体育協会との合併を試みたが、組織の性質の違いから合併申し入れの合意には至らなかった。しかし、平成22年に協議を再開し、各地域の活動を継承することで合意を受け、平成24年に丸子体育協会、真田町体育協会との統合、平成27年には武石スポーツ協会との統合を果たした。さらに、当協会の存在価値を高めるための方策として、「うえだスポーツ振興ビジョン」を策定、スポーツを通じたまちづくり“健幸元気都市うえだ”を掲げ、具現化に向け取り組んでいる。

平成29年には、当協会の今後のあり方を検討するための研究会が発足し、職員雇用、補助金、特定積立基金について、真剣に議論を行い、当協会として「補助金頼みの運営体質の改善のため、自主財源を確保することが必要」との答申をうけ、再び指定管理者として、令和3年市スポーツ施設管理へ参入することになった。今後、市スポーツ界の付託にこたえ、これまでの伝統を大切にしながらも新しい時代に即した組織運営を展開していくことになった。

■協会ビジョンの策定



目標1. 体育協会の組織充実

上田市のスポーツ統括団体として、加盟団体と協力し組織の充実強化を図ります。

目標2. 行政との連携強化

行政と体育協会が、それぞれのもつ役割を明確に分担し、協働により上田地域のスポーツ振興を展開します。

目標3. 健康スポーツと競技スポーツの推進

体育協会は、ライフステージにそった7つの運動により、幼児から高齢者までを対象に健康スポーツを推進すると共に発展して競技スポーツの振興を目指します。

目標4. スポーツ少年団の充実

青少年の健全な身体と精神の育成を図り、子どもたち（団員）にスポーツの楽しさと生きる力等を育てていきます。

目標5. 体育施設充実に向けての取り組み

上田市の体育施設は、県内に先駆け昭和3年から順次設置されてきているため、いずれも老朽化が進んでいる。こうしたことから体育協会は、上田城址内にある体育施設も含めた大規模な体育施設建設構想及び建設計画の策定に向けて行政と協働して作業を推進します。

目標6. スポーツ観光・国内外スポーツ交流

スポーツを通じた地域活性化を目指し、上田市の歴史的遺産と自然を活かしたスポーツ観光イベントを開催し、観光振興・国際交流並びに上田市の発展の一助となります。

■沿革

昭和60年

- ・創立40周年記念式典開催
- ・市民の森スケート場オープン、市から施設管理を委託

昭和61年

- ・上田市スポーツ少年団の設立、軟式野球スポーツ少年団を設立し登録（1団：団員28人）

昭和62年

- ・第1回上田古戦場ハーフマラソン開催
- ・創立40周年史発刊及び祝賀会を開催

昭和63年

- ・市民の森公園の全施設の管理を受託
- ・スポーツ会館建設に向け積立金に着手

平成元年

- ・第1回全日本生涯野球大会の開催
- ・スポーツ少年団登録数（15団：団員964人）

平成4年

- ・アクアプラザ上田（室内プール）オープン、施設受託開始
- ・スポーツ少年団広報誌「みどりの朝風」を創刊

平成5年

- ・若林正五会長逝去協会葬を挙行

平成7年

- ・創立50周年記念式典を開催

平成8年

- ・上田古戦場公園、県営上田野球場の施設管理を受託
- ・スポーツ少年団設立10周年記念・小谷実可子氏スポーツ講演会を開催

平成9年

- ・「市民健康体力づくりの日」活動を開始

平成10年

- ・スポーツ少年団登録数（24団：団員1,388人）

平成11年

- ・県体育協会へ職員1名派遣

平成14年

- ・アジア近隣諸国青年研修会をスポーツ少年団で受入
- ・日独スポーツ少年団同時交流へ指導者を派遣

平成15年

- ・中村良隆氏スポーツ講演会
- ・スポーツ少年団登録数（32団：2,026人）

平成17年

- ・創立60周年記念式典・祝賀会を開催、瀧純江氏基調講演会

平成18年

- ・上田市、丸子町、真田町、武石村の1市2町1村が合併し、新「上田市」発足
- ・スポーツ少年団創立20周年記念式典開催、吉松俊一氏講演会
- ・アクアプラザ上田、市民の森公園の指定管理者に選定される。

平成20年

- ・日独スポーツ少年団同時交流へ団員2名をドイツへ派遣

平成21年

- ・アクアプラザ上田、市民の森公園の指定管理者から撤退

平成22年

- ・丸子体育協会、真田町体育協会、武石スポーツクラブへ体育協会統合を申し入れ、統合に向け協議を開始、武石スポーツクラブについては、統合調整に参加しない意向を表明

平成23年

- ・東日本大震災に伴う義援金活動を開始、真田幸村公の縁で交流がある宮城県白石市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町、南三陸町の3市3町を支援
- ・「うえだスポーツ振興ビジョン」を策定
- ・上田市スポーツ少年団創設25周（登録数42団2,214人）
- ・第1回シリーズスポーツ講演会を開催（講師：野口京子氏）

平成24年

- ・常勤専務理事と事務局職員1名を増強。
- ・丸子体育協会、真田町体育協会と統合、新生「上田市体育協会」がスタート、3体協統合バントを実施。
- ・両角速氏スポーツ講演会を開催
- ・荻原健司氏スポーツ講演会を開催

平成25年

- ・「一般財団法人」へ移行

平成26年

- ・宮城県南三陸町の少年野球チームを迎えて復興支援交流交歓会を開催
- ・南三陸町体育協会来田、スポーツ少年団交流を実施



- ・山本昌邦氏スポーツ講演会を開催

平成27年

- ・武石スポーツ協会と統合

平成28年

- ・宮城県南三陸町へスポーツ少年団を派遣、スポーツ交流を実施
- ・上田市スポーツ少年団創設30周年記念誌発行

平成30年

- ・体育協会創立70周年記念、瀬古俊彦氏スポーツ講演会を開催
- ・スポーツ少年団登録数（48団1,685人）

令和元年

- ・台風19号災害により千曲川が氾濫、上田古戦場ハーフマラソンが初の中止となる。

令和2年

- ・スポーツ少年団登録数（48団1,589人）

令和3年

- ・上田古戦場公園の指定管理者となる

■組織

新公益法人制度改革による抜本的な見直しにより旧制度を改め、外部からの登用も加え、理事22名、評議員14名、監事2名とし、新たに加盟団代表者制を設け加盟団体からの意見聴取の場を設置。

加盟競技団体38団体、地区団体3団体、スポーツ少年団48団体

■役員

○会長

遠藤	利治	平成5年～平成12年
久保	忠夫	平成13年～平成22年
森	大和	平成23年～令和2年
母袋	創一	令和3年～現在

○副会長

丸山	登一郎	昭和58年～平成8年
遠藤	利治	昭和62年～平成4年
田辺	昭夫	平成5年～平成12年
岩草	満	平成9年～平成12年
成澤	秀敏	平成13年～平成16年
柳澤	守彦	平成13年～平成22年
瀧	勉	平成17年～現在
増澤	延男	平成17年～現在

丸山 俊治	平成21年～令和2年
小林 秀男	平成24年～平成30年
木島 久文	平成24年～現在
下村 栄	令和元年～現在
小林 哲夫	令和元年～令和2年
矢島富士雄	令和3年～現在



公益財団法人 岡谷市スポーツ協会

1 昭和63年までのあゆみ

「岡谷體育協會」の設立

昭和5.9.8「岡谷體育協會」が正式に発足、事務所を岡谷公会所内に置く。

会長に林新一郎、副会長花岡和人・中村百太郎

「岡谷市体育協会」の設立

昭和13.7.20「岡谷體育協會」が発展的解消し「岡谷市体育協会」が設立された。

初代会長に今井梧棲市長、副会長柳沢助役

「岡谷市体育協会」の組織改造

昭和20.4.1 第8代会長に林浩正市長が選任された。

これを機に市体協では規約改正、組織の再編等を通じ現状にあった体質改善を行った。従来の部制による運営から部以外の協会・クラブなど独自の活動団体を統一し、また、区を代表する体育団体の加入を呼びかけた。その結果21団体と区体協11区の加盟が実現した。

「岡谷市体育協会」の財団法人化

昭和50.10.18 財団法人化のための企画委員会が発足。

財団法人化のねらいは、市民総参加のスポーツ活動を一層充実させるために市体協が行政と一体となって協力で広範な体育活動を推進する必要があった。このためには現状の補助金や会費等による困難な運営から脱却し、公益を目的とした法人化をはかり、免税募金を可能にし、それによって生ずる基本財産によって確実な運営を図るというものであった。

昭和52.7.11 設立基金を最低目標1,500万円を決定、スポーツに理解をもつ市内事業所、スポーツ競技団体地区体協や一般市民に寄付の協力を呼びかけた。

昭和53.6.16 基金2,000万円で財団法人化の登記を完了した。(全国で9番目)

会 長 林泰章

副会長 平林三之助・林友蔵

専務理事 征矢才

常任理事 高林清高・高橋浩・小口悦司

理 事 小口喜富・大槻智恵子・千代馨脩・林敬為・大滝昭吉・小口大八・山下道広・花岡宏

監 事 濱興祐・高橋司郎

(加盟団体)

競技団体 (23)

軟式野球連盟、バレーボール協会、陸上競技協会、軟式庭球協会、庭球協会、卓球連盟、バドミントン協会、バスケットボール協会、ソフトボール協会、スケート協会、柔道協会、剣道協会、弓道協会、スキー協会、合気会、水泳協会、ライフル射撃協会、山岳協会、空手協会、ライフル射撃協会、早起き野球会、レクリエーション協会、サッカー協会

地区体育協会 (13)

今井、間下、岡谷、下浜、小尾口、上浜、新屋敷、小口、小井川、西堀、湊、川岸、長地

参加団体 (1)

岡谷市スポーツ少年団

2 平成元年以降のあゆみ

平成17.12.6岡谷市綱引連盟の加盟を承認

平成18.4.1 (財) 岡谷市体育協会の事務局の自立

平成22.5.20岡谷フォークダンスクラブの加盟を承認

「甲府・岡谷スポーツ大会」発展的解消

平成23.10.23、昭和26年に「甲信駅伝競走」として開催され、本年度で第42回(通算60回)となる歴史ある大会であるが、近年は少子化や大会数の増加、選手の固定化、高齢化、競技環境の変化等から大会への参加者(競技役員含む。)が年々減少している。

両市で対策を講じてきたが有効な改善策が見いだせないため協議の結果、節目である60回をもって終止することになった。

「財団法人から公益財団法人への移行」

平成18年6月に公布された「公益法人改革3法」が平成20年12月1日から施行され、現行の財団法人は特例民法法人となり、以後5年間（平成25年11月30日）の経過期間内に公益認定申請し、現行の財を受けて公益財団法人に移行するか、あるいは認可申請を行い一般法人へ移行するか、又は解散して法人格のない任意団体に移行するかが求められることになった。

当協会は、過去80余年（財団法人化32年）にわたり「アマチュアスポーツの健全なる振興と市民の体力の向上及び体育文化の進展を図ることを目的とする事業」を展開し、将来にわたって公益事業を継続することが求められていること等を総合し、現在保有する財産を活用しつつ、法的な制限は多いものの、税制上の優遇措置を受けられる公益財団法人へ移行すべきとの結論に至った。

平成23.5.18 平成23年度第1回理事会において決議
平成23.5.25 平成23年度第1回評議員会において決議
平成25.3.25 岡谷市ローラースポーツ協会脱退を承認
平成25.4.1 岡谷市漕艇協会の休会を承認

「公益財団法人岡谷市体育協会」の発足

平成25.1.17「長野県公益認定等委員会」において認定の基準に適合すると認められる。正式通知は4月1日登記に合わせ3月20日とした。

平成25.3.22「公益財団法人」として移行認定を受理

平成25.4.1「公益財団法人岡谷市体育協会」として発足

（役員）

会 長 千代馨脩
副 会 長 林裕彦、野口行敏、松山武雄
専務理事 陸川和弘
常務理事 鮎澤憲通、宮坂健一、高林順三
理 事 宮坂伸、尾崎孝、伊沢修一、上沼縁、
荒井誠司
監 事 花岡功浩、木下敏彦

（評議員）

新井憲次、小松憲三郎、北原桂子、寺島英雄、
尾又順一、小口眞喜也、松浦盛明、伊藤祐臣、
金子義雄、中松茂夫、宮坂勝次、今井光則、
中島友義、小口九美雄、小口進、中島昭、
高山修一、小口昌弘、吉原君子、宇治浩

「おかやファミリースポーツフェスティバル」中止

平成26.3.13「体育の日」の趣旨に基づき、スポーツを始めるきっかけ作りを目的にスポーツ中心で行ってきたが、今後は「スポーツに親しみ健康な心身を培う」新規事業を検討する。

平成26.5.16 岡谷市サイクリング協会脱退を承認
平成27.2.17 岡谷市ライフル協会脱退を承認
平成29.2.24 岡谷市体操協会の休会を承認

「災害時における飲料水等の供給に関する契約」

平成27.4.1 財政基盤の強化（収益事業：自主財源の確保）の一つとしてサントリービバレッジ（株）と市内において地震、風水害その他の原因による災害が発生し、又は、発生する恐れがある場合における飲料水等の供給に関し、自動販売機内の飲料水等を無償提供する。

また、岡谷市拠点の保有飲料水等を最大優先的に無償提供するという内容で協定を締結した。また、岡谷市とも災害時における飲料水等の供給に関する当協会が所有する自動販売機による商品販売に関して設置協定を行った。（平成27.4.1～平成30.3.31）

平成24.11.6 県に公益財団法人移行申請書を提出

平成26.5.16 岡谷市サイクリング協会脱退を承認

平成27.2.17 岡谷市ライフル協会脱退を承認

平成27.10.7「行政庁の立入り検査」を受ける。

平成28.4.5 岡谷市バドミントン協会脱退を承認

平成29.2.28 岡谷市ゲートボール協会の休会を承認

平成29.2.28 岡谷市バドミントン連盟の加盟を承認

平成30.9.5「行政庁の立入り検査」を受ける（第2回目）

令和1.12.24 姉妹都市富岡市に訪問し、台風19号災害義援金を届ける。

「公益財団法人岡谷市スポーツ協会」に名称変更

令和2.4.1「体育」から「スポーツ」という名称変更は、90年ぶりのものであり、本協会にとって大きな転換期をなすものである。「体育」から「スポーツ」の概念には大きな違いはなく、現在では「スポーツ」は体育や身体活動の概念を含むものと認識されるようになり「スポーツ」という表現が広く人々や社会に浸透している。また、当協会の上部団体（日本スポーツ協会、長野県スポーツ協会）や諏訪地方5市町村の動向をみても「スポーツ」に変更している。

「岡谷市スポーツ協会旗」の新調

令和2.2.26当協会は令和2年4月1日より協会の名称を「公益財団法人岡谷市スポーツ協会」に変わる。これを機に、旗のデザインを新調することになった。最終図案は中央印刷株式会社にお問い合わせした。

令和2.7.30 岡谷市チアリーダー協会の休会を承認

令和2.10.1 当協会の広報誌「スポーツおかや」名称変更とホームページ刷新を図る。

令和2.12.22. 岡谷市議会（総務委員会）との懇談会

令和3.1.28. 岡谷市財政援助団体監査実施

「2028年度国民スポーツ大会」

長野大会へ岡谷市から代表選手を輩出するため、競技力向上事業補助金制度を創設する。

「コロナ禍の影響でスポーツイベント等が自粛」

令和2年度当初より新型コロナウイルスの感染症の影響を受けて活動の「自粛」を余儀なくされ、多くの

大会や教室等が中止又は延期となり、事業活動において厳しい状況が続いた。(R3もいまだに続いている。)

公益財団法人 飯田市スポーツ協会

沿革

飯田市体育協会として発足したのは昭和24年4月1日、その後昭和31年に座光寺村・松尾村・竜丘村・三穂村・伊賀良村・山本村・下久堅村との合併。昭和36年に川路村と合併。昭和39年には龍江村・千代村・上久堅村と合併。昭和59年12月1日には鼎町（体育協会）と平成5年7月1日には上郷町（体育協会）と合併してきました。

協会も法人化する機運が昭和50年代終わり頃からありました。この時期はまだ無理な状況でしたが、一定の基金積み立てにより、そこから発生する利息収入等で運営したいという思いもあり、基本財産を積み立ててきました。そして幾多の研究協議等により煮詰め、平成6年9月22日任意団体である「飯田市体育協会」の解散総会等を行い、「財団法人飯田市体育協会」が発足しました。

平成17年10月1日には、上村・南信濃村との合併により現在の協会エリアとなりました。

また、一定程度財産のある法人について、「公益財団法人」か「一般財団法人」として今後活動するのが良いのかについて研究協議を行い、平成24年4月1日に「公益財団法人飯田市体育協会」としての活動となりました。

協会名称も「スポーツ」の流れの中で論議を経て、令和2年5月21日から「公益財団法人飯田市スポーツ協会」と名称変更をして現在に至っています。

また、事務局も従来から飯田市役所に設置していたが、市役所の建替えにより平成27年より飯田市勤労青少年ホームの一室が事務所と活動拠点になりました。

特徴的活動

○中央道沿線都市親善スポーツ大会

昭和56年度に本体育協会の30周年事業の一つとして、中央自動車道を利用して飯田でスポーツ活動を通じて交流を図ろうとして、「中央道沿線都市親善スポーツ大会」を開催しました。当初は2日間で7種目1,542名の参加があり盛大に行われました。その後種目も増え、期日も種目ごとの開催となり、平成30年度には9日間、11種目、4,568名参加と規模も大きくなり、現在でも協会の主要な事業として充実開催に努めています。



スポーツ振興ビジョン

2027年リニアエクスプレスの長野県駅（仮称）が飯田市に設置されることにより地域全体が今までの「伊那谷」の生活から、東京・名古屋がほぼ一直線に、どちらの都市へも1時間以内に結ばれることにより大きな変化が訪れようとしていることから、スポーツ界においてもそれを見越したビジョンを打ち立てそれに沿って活動することとなりました。

○ビジョン策定

リニアエクスプレス開通（2027年）後までに体協活動を含めてどのような手立てが必要か等について、平成27年6月から7回の「スポーツビジョン検討委員会」が開催されました。

その結果、基本理念として「スポーツ文化推進による元気な南信州の構築」とし、目標年次を「2027年」、体系として

- ①市民のための体育協会
- ②スポーツ施設環境向上
- ③スポーツ統括団体としてのリーダーシップ
- ④財政基盤の充実
- ⑤地域団体との連携

の5つの柱を設けて活動することとしました。

○ビジョンの実行活動

- ・みなみ信州駅伝・ロードレース大会

リニアエクスプレス開通までに当地域がスポーツで発信できる事業として平成28年11月に第1回みなみ信州駅伝・ロードレース大会を創設し、この大会がより充実し全国に発信できるような大会を目指しています。

この大会は加盟各種目競技団体関係者が競技団体個別の活動をひかえ、大会を体協主催行事として一緒に開催運営している大会となっています。

- ・多目的体育館実現に向けた活動

スポーツ環境の向上は常に課題の一つとなっていますが、とりわけ体育館の建設について昭和50年代後半から平成の初めにかけて気運が盛り上がり、一旦は建設に向けた検討に入ったが、建設には至らなかった経過がありました。

そこで日本のほぼ中央である当地域に多目的体育館（アリーナ）を建設し、全国からのスポーツ愛好家にも満足出来る施設建設を目指した活動を行い、25千余名の署名による要請を南信州広域連合長へ致

しました。

莫大な金額が必要になる案件であることから結論は出ていませんが、他の団体等と連携して建設に向けた活動を続けています。

・財政基盤の充実に向けた活動

財政基盤の充実はどうしても弱い部分があり、毎年基金を取り崩しての運営をしてきた経過もありました。

平成30年度から飯田市有施設である「飯田市総合運動場、飯田勤労者体育センター、飯田市勤労青少年ホーム」の指定管理を担い、体育協会業務と指定管理業務を双方兼務しながら業務効率を図り、1期（3年）を経て2期（5年）目の業務を進めています。その結果、基金を取り崩しての運営が無い状況になってきました。

今後の課題

・競技人口の減少

市民がスポーツに親しめる環境を整えるためにスポーツ協会が出来ることを提供し、元気な生活を営んでもらえるような方向を目指しています。とりわけ小学生においては体力的に全国平均を下回っている状況もあります。また中学生期では、全市型競技別スポーツスクールとして、協会は競技指導を主体に担い教育委員会と進めています。

R2.3年の新型コロナウイルス感染症に際しては、学校スポーツへの制限もあり、活動者数の減少がみられました。そして大人のスポーツ活動も制限があることから必ずしも高まっていない状況もあります。

・競技団体担い手と指導者不足

スポーツ活動を活発に推進するには、良き指導者と競技団体の活動の活発化が大きな要因となっていますが、若者が経験してきた競技を続け、一線競技者から指導者として競技の普及・強化を行えるような担い手不足と競技団体組織の運営に携わりスポーツ活動を広めていく担い手が高齢化している状況があります。



令和元年度 107チーム出場の駅伝スタート

組織代表者等

- 1 会長

松沢 太郎	S 63年～
田中 秀典	S 64年～
牧野 光朗	H18年～
佐藤 健	R 2年～
- 2 副会長

福島 稔	S 63年～H 3年
今井 孝二	S 63年～H 6年
松尾 豊	S 63年～H15年
吉沢 睦美	S 63年～H19年
小林恭之介	H 4年～H 6年
吉川 國光	H 7年～H15年
矢島 秀次	H16年～H22年
川井 重明	H16年～H22年
土屋 章尋	H20年～H23年
北沢 豊治	H20年～H22年
矢澤 章弘	H23年～H31年
康野 公則	H23年～現在
浦野 智	H23年～H30年
田中 進	H23年～H23年

H24年度から代表理事が組織代表者
- 3 代表理事

土屋 章尋	H24年～
榊山 俊彦	H28年～
森山 和幸	R 2年～

諏訪市スポーツ協会



1. 沿革

昭和16年8月、豊田、四賀の両村を合併して諏訪市となり、それまでの上諏訪体育協会が諏訪市体育協会として新発足したが、太平洋戦争により活動が中止、昭和20年8月の終戦により各スポーツ部門が発足したことを機に、21年9月、諏訪市体育協会再設立準備会が設けられ、翌年2月に諏訪市役所において再発足した。

その後、加盟協会の増加と諏訪市社会教育の振興を願って、昭和24年7月「諏訪市体育連盟」と名称を改め、役員も全員が体育経験者が選任されることとなった。

昭和27年教育委員会が設置されるとともに、事務局を教育委員会内に移し、事務局長に社会体育係長を任命、昭和55年市庁舎内に体育連盟室設置が許可されたのを機に事務職員を採用し、諏訪市体育連盟としての自主的運営に踏み切った。

平成12年に「県レベルのスポーツ大会開催が困難な諏訪市の体育施設には、総合体育館の建設が必要と打ち出した新会長の会長方針のもと、翌13年に「総合体育館建設プロジェクトチーム」を発足させ、同年12月に計画図を作成し「諏訪市総合体育館建設に関する要望書」を諏訪市に提出したが、14年10月「諏訪地域6市町村任意合併協議会」の設置がなされ、以降合併協議のため中断となり、立ち消えとなってしまった。

平成18年3月、平成大合併の協議が破綻した後の諏訪市総合計画に盛り込むべく、平成13年の「諏訪市総合体育館建設に関する要望書」踏まえて、「諏訪市総合体育館建設推進委員会」を体育連盟の専門委員会として設置し改めて建設の実現を図り、以降2年に一度の視察等も推進して市長要望にも盛り込むと同時に建設推進の提案を進め、平成29年以降は建設地を「旧東洋バルブ工場跡地」として、同地で従来開催されてきた「諏訪圏工業メッセ」にも利用可能な「多目的体育施設」建設の推進を提案してきている。

この間、合併協議破綻以降の財政状況等も踏まえて、体育連盟の「法人化」の検討も継続して実施するとともに、平成30年の「体育連盟」から「スポーツ協会」への名称変更にあたっては、加盟各協会の意向等のアンケートを実施し、平成31年4月から「諏訪市スポーツ協会」へと改称し、同時に発足以来の「協会旗」も新たに選定して、「笑顔輝くスポーツの力で賑やかな街づくり」をコンセプトに事業推進を図っている。

2. 組織

①競技団体 33団体

野球、バレーボール、スケート、陸上競技、バスケットボール、ソフトテニス、山岳、バドミントン、水泳、卓球、スキー、剣道、柔道、弓道、空手道、グライダー、ボート、テニス、サッカー、セーリング、オリエンタリング、ソフトボール、ゴルフ、ゲートボール、ボーリング、マレットゴルフ、カーリング、ペタンク、エースドッジボール、合気道、ノルディックウォーキング、ダンススポーツ、太極拳

②傘下スポーツ少年団 13種目21団

軟式野球（5団）、バレーボール（3団）、サッカー、バドミントン、卓球、柔道（2団）、剣道（2団）、空手道、スキー、ヨット、新体操、武道空手、少林寺拳法

③組織

理事会、常任理事会、総務委員会、事務局

④役職

会長・副会長（2）・理事長・総務委員長・総務委員・監事（2）顧問（参与）

3. 事業

①団体の育成強化

- (1) 組織の強化と指導体制の確立
- (2) 財政基盤の強化
- (3) 各協会事業の充実・各種大会の開催
- (4) 競技力向上の推進
- (5) スポーツ人口の底辺拡大
- (6) 協会対話の推進

②スポーツ施設の充実

- (1) 多目的体育施設建設の推進
- (2) 現有施設の改善促進（現体育施設及び学校施設の改善）
- (3) 耐震に伴う施設の見直し

③市民体育振興

- (1) 市民スポーツ祭の開催
- (2) 各種スポーツ教室の振興
- (3) スポーツ指導者の育成
- (4) 市民体力づくり運動の推進
- (5) 生涯スポーツの推進
- (6) 社会体育と学校体育の連携強化
- (7) すわっこランド施設の有効活用

④2028長野国民スポーツ大会

（国体）開催に向けての選手育成と各種競技会の誘致

⑤スポーツ少年団の育成強化

⑥スポーツ協会組織の充実強化

- (1) 法人格の研究
- (2) 広域体育活動の推進

⑦開催事業への協力

- (1) 市教育委員会の体育振興施策への協力
- (2) 諏訪地方スポーツ協会連絡協議会の事業への協力
- (3) 長野県スポーツ協会の事業への協力

4. 役員

① 歴代会長

- ・宮坂 作衛・山中 助蔵・金井 汲治・塩原 洵・宮坂 伊兵衛・藤森 清一郎（昭和7年～18年）
- ・宮坂 勝衛・塚原 章穂・平林 安幸・三沢卓三郎・浜 田美蔵・茅野 耕一（昭和21年～28年）
- ・伊東 忠蔵（昭和28年～32年）
- ・小池 花男（昭和33年～40年）
- ・北沢 淑夫（昭和41年～51年）
- ・岩波 啓富（昭和51年～平元年）
- ・土橋 道治（平成2年～11年）
- ・太田 信男（平成12年～13年）
- ・岩波 章八（平成14年～18年）
- ・佐久 秀幸（平成19年～現在）

② 副会長

- ・小松 直治・林 虎雄（昭和7年～18年）
- ・宮坂 勝衛・伊東 忠蔵・藤原 正男・笠原 武次・矢島 敏晴・金沢 正巳（昭和24年～40年）
- ・飯塚 勝敏（昭和41年～61年）

- ・関 勝（昭和41年～43年）
- ・土橋 道治（昭和50年～平成元年）
- ・立木 正純（昭和51年～平成11年）
- ・藤原 綱夫（昭和61年～平成10年）
- ・太田 信男（平成2年～11年）
- ・有賀 裕（平成10年～13年）
- ・河西 勇（平成12年～13年）
- ・北澤 忠義（平成12年～13年）
- ・山田 一六（平成14年～19年）
- ・小松 修治（平成14年～21年）
- ・有賀 文夫（平成14年～現在）
- ・松木 則好（平成20年～21年）
- ・藤森 節徳（平成22年～令和元年）
- ・今井 幸寿（平成22年～23年）
- ・塩原 晴彦（令和2年～現在）

③理事長

- ・大堀 高志（昭和24年～26年）
- ・河西 勝（昭和31年～33年）
- ・土井 卯八（昭和33年～34年）
- ・松沢 国夫（昭和35年～40年）
- ・河西 勝（昭和41年～47年）
- ・藤原 綱夫（昭和47年～61年）
- ・土屋栄三郎（昭和61～平11年）
- ・今井 正喜（平成12年～15年）
- ・牛山 孝（平成16年～19年）
- ・堀田 実（平成20年～27年）
- ・名取 功夫（平成28年～現在）

一般社団法人 須坂市スポーツ協会

1 体育協会の設立と市民スポーツの発展

須坂市スポーツ協会は、昭和22年2月、須坂町体育協会として設立され、昭和29年、市政施行に伴い須坂市体育協会に改称された。

昭和30年代は、各競技協会がそれぞれの自主的活動により、市長杯や市民対抗競技会等を開催し成長した。特に昭和39年の東京オリンピック以降は高度経済成長と社会の安定に伴ってスポーツが学校教育だけでなく、職場や地域社会へ大きく広がり発展した。

昭和45年、須坂園芸高校、昭和46年、須坂商業高校の野球部が2年続けて夏の甲子園に出場し、市民を大いに沸かせた。

昭和52年、全日本卓球選手権大会に富士通須坂工場チームが出場し第2位を獲得した。

昭和53年、本県において「やまびこ国体」が開催され、須坂市では卓球競技とバスケットボール競技が開催された。

昭和56年には墨坂中学校女子バレーボール部が全国制覇を成し遂げた。

これら市内チームの活躍や国体の経験は、市民のスポーツへの関心と参加意欲を更に高め、各競技団体発展の原動力となった。

2 昭和60年代からの協会のあゆみ

昭和61年、加盟団体から募集した作品から市章の中に「スポーツで鍛えた健康な体」を象徴する体育協会のシンボルマークを選定した。

昭和62年、体育協会創立40周年に当たり「須坂市体育協会史」の編纂事業が進められた。

昭和63年、当市出身高橋有紀子氏がソウルオリンピッ



クバレーボール競技に出場し第4位を獲得。平成4年のバルセロナオリンピックでは、同競技第5位。また同氏は、平成8年のアトランタオリンピック、平成12年のシドニーオリンピックのビーチバレーボール競技に出場し、第5位と第4位を獲得した。

平成8年度から平成20年度の間、体育協会は須坂市社会体育施設窓口業務を受託した。

平成9年、体育協会創立50周年を記念して、積水化学工業女子陸上部監督小出義雄氏による講演会、記念式典・祝賀会を挙行し、県民須坂運動広場入口に「脩己以敬（しゅうこいけい）」の記念碑を建立した。

平成14年、須坂市社会体育施設の利用団体と体育協会加盟団体は連名で、須坂市長、須坂市議会議長宛て「須坂市総合体育館建設実現に関する陳情書」を提出するが、市は須坂富士通の閉鎖等経済情勢の悪化により「総合体育館建設は一時凍結する」ことを決定した。

平成18年、本県で「北信越国体」が開催され、市民体育館において卓球競技が行われた。

平成19年、体育協会創立60周年記念事業として、信州大学副学長藤沢謙一郎氏の講演会と記念式典・祝賀会が挙行された。

平成21年、体育協会事務局を市民体育館から須坂市勤労青少年ホーム創造の家に移転した。

平成23年、東北地方太平洋沖地震と長野県北部地震の巨大災害が発生し、体育協会は加盟団体と協力して義援募金に取り組んだ。

平成24年、総合型地域スポーツクラブ「いきいきスポーツクラブすざか」が設立され、事務局は体育協会事務局内に置かれた。同年、日本体育協会のキャンペーンに賛同し「フェアプレイで須坂を元気に」宣言を行った。

平成26年、総合型地域スポーツクラブへの補助金が年々減少する中、運営困難のため同クラブは解散となった。

平成27年、体育協会は市から創造の家の指定管理（第1期）を受託した。

平成29年4月、一般社団法人須坂市体育協会が発足。同年、体育協会創立70周年を記念して「須坂市体育協会のあゆみ」が刊行され、シンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチ井村雅代氏による講演と記念式典・祝賀会が挙行された。

平成31年、当市出身アジア大会セパタクロー競技銀メダル、小林裕和氏講演会を開催した。

令和元年5月、法人の名称を一般社団法人須坂市スポーツ協会に改めた。

令和2年、創造の家の指定管理（第2期）を受託した。

3 組織体制について

一般社団法人須坂市スポーツ協会は現在、加盟24競技団体により組織されている。

役員は理事の中から、会長1名、副会長4名、専務理事、常務理事各1名が選任され、市文化スポーツ課担当者、市スポーツ推進委員等学識経験者、加盟競技団体から選出された理事24名、代議員24名、監事2名から成り、顧問・参与の他、専門委員会が併せて設置されている。

4 加盟競技団体（令和4年3月31日現在）

陸上競技協会 野球協会 スキークラブ バレーボール協会 バスケットボール協会 卓球協会 柔道協会 剣道連盟 弓道会 ソフトテニス協会 ソフトボール協会 スポーツ少年団 空手協会 水泳協会 テニス協会 サッカー協会 バドミントン協会 ゲートボール協会 マレットゴルフ協会 ダンススポーツ協会 ママさんバレーボール連盟 太極拳協会 ウォーキング協会 ソフトバレーボール連盟

5 歴代役員（昭和60年代以降）

(1) 会長

田中	太郎	昭和59年度～平成5年度
岩崎	忠三	平成6年度～平成17年度
橋本	和江	平成18年度～平成19年度
山際	莊一	平成20年度～平成21年度
傳田	明康	平成22年度～現在

(2) 副会長

養田	正義	昭和45年度～昭和62年度
北村	善三郎	昭和49年度～平成3年度
青木	信夫	昭和51年度～平成3年度
中沢	允	昭和53年度～平成3年度
遠藤	利男	昭和61年度～平成3年度
岩崎	忠三	昭和63年度～平成5年度
押鐘	昭	平成4年度～平成9年度
青木	周一	平成4年度～平成17年度
大峽	栄治	平成4年度～平成17年度
中村	理一	平成4年度～平成17年度
大久保	俊弘	平成6年度～平成12年度
橋本	和江	平成10年度～平成17年度
森山	茂勝	平成13年度～平成19年度
山際	莊一	平成16年度～平成19年度
堀内	孝人	平成18年度～平成26年度
傳田	明康	平成20年度～平成21年度
坂田	雅幸	平成20年度～平成23年度
根岸	正喜	平成20年度～平成21年度
目黒	昭伸	平成22年度～平成28年度
菊池	健造	平成22年度～現在
渡辺	利夫	平成24年度～平成25年度
原	信行	平成26年度～現在
永藤	聡	平成28年度～現在
北島	邦造	平成30年度～現在

(3) 理事長（平成29年度から専務理事）

岩崎	忠三	昭和53年度～昭和62年度
中村	理一	昭和63年度～平成3年度
大久保	俊弘	平成4年度～平成5年度
山小	貴治	平成6年度～平成11年度
山際	莊一	平成12年度～平成15年度
堀内	孝人	平成16年度～平成17年度
傳田	明康	平成18年度～平成19年度
目黒	昭伸	平成20年度～平成21年度
渡辺	利夫	平成22年度～平成23年度
原	信行	平成24年度～平成25年度
北島	邦造	平成26年度～平成29年度
湯本	剛文	平成30年度～現在

(4) 副理事長（平成29年度から常務理事）

田幸	信治	昭和53年度～昭和62年度
山崎	良二	昭和63年度～平成3年度

山小 貴治 平成4年度～平成5年度
 坂口 光男 平成6年度～平成7年度
 山際 荘一 平成8年度～平成11年度
 堀内 孝人 平成12年度～平成15年度
 傳田 明康 平成16年度～平成17年度

根岸 正喜 平成18年度～平成19年度
 渡辺 利夫 平成20年度～平成21年度
 永藤 聡 平成22年度～平成27年度
 小山 弘子 平成28年度～現在

一般財団法人 小諸市体育協会

北に活火山“浅間山”、南に清流“千曲川”……この詩情豊かな街「小諸」…戦前はスポーツが盛んで、多くのグループが活発に活動していたが、敗戦によりこれらの運動が中断されていた。

昭和21年から23年にかけて、敗戦の混乱と生活苦の中からスポーツを通じて住民に夢と活力をと、運動グループ再建の息吹が胎動、地域のスポーツ指導者と行政の協調により着々と再建に向けて運動グループ組織化への努力がなされ、体育協会設立への準備が進められた。

昭和25年には町営グラウンドが建設され、これを契機に全小諸野球チームが結成され、また小諸柔道クラブ、小諸山岳会が発足し体育協会設立に向けての基盤整備がなされた。

ここでいよいよ、すでに発足していた野球・卓球・バレーボール・軟式野球・バスケットボール・柔道・剣道・弓道・陸上・水泳・相撲・山岳・スキーの13団体との協働により「小諸町体育協会」が結成された。これにより各種のスポーツ行事も盛大に開催され、住民のスポーツに対する参加意欲も大いに高まった。

昭和29年4月に町村合併による市制施行に伴い、合併5ヶ町村の代表者会議を開催し、「小諸市体育協会」に名称変更し、この年市制施行記念行事として、第一回市内一周駅伝大会を実施、市民総参加によるスポーツ促進を指向した。



小諸市駅伝大会



身障者ニュースポーツ大会

昭和39年、この年東京オリンピックが開催され、10月15日には全市民参加による聖火リレーを実施。また、待望の市営球場が唐松に完成し、その球場開きが行われるなど、施設充実の年でもあった。

昭和43年ころには、各部の活動も年を追うごとに充実し、市民のスポーツ参加への働きかけを促し、さらに天池総合運動場の整備が進展し、スポーツ施設整備拡大への槌音が浅間嶺に響き渡り、スポーツ振興の拠点として多くの市民の期待を集めた。

昭和44年、いよいよ天池総合運動場（野球・陸上・テニス・バレーボール・サッカー）が完成。この年は市制施行15周年にもあたり、記念行事として「第一回市民運動会」を開催。二千余名が参加のもと盛大に開催され、施設整備とあいまって「小諸スポーツ元年」ともいえる年であった。

昭和47年には、時代を反映しボーリング熱が高まり、ボーリング部が誕生し新しいスポーツへも分野を広げた。また、滑川市との姉妹都市スポーツ交流が、野球・硬式テニス等各部事業として実施された。

昭和51年、長野県体育協会よりスポーツ功労賞が小諸市体育協会へ授与され、翌年には社会体育優良団体として文部大臣表彰を受賞した。この年、大磯町体育協会が姉妹都市交流のため小諸市を訪れた。

昭和53年「やまびこ国体」が長野県下で開催され、小諸市では「レスリング競技」が開催実施、その会場として、永年の懸案であり待望久しかった「総合体育館」が完成、市民一丸となって国体の運営と成功に向けて取り組んだ結果、無事その任を果たすことができた。

昭和56年、広報活動として市民スポーツ啓蒙を期し「小

諸体育協会報」発行開始。これは現在も市内全戸配布で継続している。

昭和58年には、永年の懸案であった「武道館」が完成し三武道（柔道・剣道・弓道）の振興鍛錬の場として盛大にオープンニングを行った。

昭和59年、南城公園に市民プール（流水プール・こどもプール）が完成、賑わいをみせた。平成61年には待望の五十メートルの公認プールが南城運動公園に完成し、日本のトビウオ古橋広之進元日本水連会長（元JOC会長）を招き盛大に竣工落成を祝った。

平成63年、乙女湖公園に人工芝のゲートボール場3面と夜間照付テニスコート8面が完成し、若者から高齢者の白球を追う姿で大いに賑わった。平成元年、スポーツ少年団の体協加盟により20団体の組織となる。この年、南城運動公園野球場が完成、よって小諸市の体育施設が一通り完備となった。

平成4年、体育協会創立40周年を記念し「小諸市体育協会誌」を発行。平成17年には体育協会創立50周年を記念し「小諸市体育協会誌」発行。

平成27年、任意団体より法人格を取得「一般財団法人小諸市体育協会」として組織替を実施した。尚、令和3



小諸市オープン綱引大会



大磯町スポーツ交流

年4月より、小諸市総合体育館他の小諸市体育施設の指定管理を再開している。

現在 構成団体数25団体 協会員1500人余で活動中

令和3年度 加盟団体

野球部 バレーボール部 ソフトテニス部 卓球部 柔道部 剣道部 弓道部 陸上部 水泳部 レスリング部 空手道部 バトミントン部 ソフトボール部 アーチェリー部 ゴルフ部 マレットゴルフ部 エアロビクスダンス部 太極拳部 グラウンドゴルフ部 テニス部 空道部 フットサル部 スポーツ吹矢部 少林寺拳法部 スポーツ少年団（以上25団体）

スポーツ少年団

小諸少年柔道 小諸キッズレスリングクラブ 小諸市サッカー 美南ドリームズ 空手道示現館 小諸ジュニア駅伝クラブ わんぱくキッズ 小諸東ミニバスケットボールクラブ アーチェリークラブ 少林寺拳法小諸（以上10クラブ 団員350名）

伊那市スポーツ協会

■組織

本協会は33の競技団体と、スポーツ推進委員会、地区公民館の全44団体の加盟により組織しており、事務局を伊那市文化スポーツ部内に設置して運営している。

(1) 役員構成

会長 1名、副会長 若干名、理事長 1名、副理事長 若干名、常任理事 各部会の長・各地区1名、理事 各部会・各地区4名以内、監事 2名、事務局長 1名、幹事 若干名

(2) 加盟団体（44団体）

野球部、陸上部、バレーボール部、バスケット部、ソフトボール部、ソフトテニス部、硬式テニス部、卓球部、バドミントン部、剣道部、弓道部、柔道部、ス

キー部、スケート部、山岳部、水泳部、スポーツ少年団、少林寺拳法部、ラグビー部、馬術部、サッカー部、ゲートボール部、綱引部、マレットゴルフ部、ゴルフ部、ソフトバレー部、太極拳・気功部、トリムバレー部、カヌー部、合気道部、海洋部、パターゴルフ部、空手部、フットサル部、スポーツ推進委員会、伊那公民館、富県公民館、美簗公民館、手良公民館、東春近公民館、西箕輪公民館、西春近公民館、高遠町地区、長谷地区

■歴代役員

<旧伊那市>

会長 原 久夫（昭和61年～平成6年）

	唐澤 茂人（平成6年～平成7年）
	小坂 樫男（平成8年～平成18年）
副会長	宮下 安人（昭和61年～平成7年）
	保科 恭治（平成7年～平成15年）
	北原 明（平成15年～平成18年）
理事長	神田 福治（昭和60年～昭和63年）
	所沢 千秀（平成元年～平成16年）
	阿部 凱人（平成17年）
＜旧高遠町＞	
会 長	北原 三平（昭和54年～平成12年）
	伊東 義人（平成12年～平成18年）
副会長	向山 幹男（昭和54年～平成2年）
	伊藤 敏男（昭和54年～平成5年）
	堀井 英雄（昭和59年～平成2年）
	山川 廣（平成2年～平成9年）
	唐沢 千春（平成2年～平成6年）
	高嶋 好文（平成6年～平成9年）
	中原 長昭（平成9年～平成18年）
	北村 勝彦（平成9年～平成14年）
	矢野やよ江（平成14年～平成18年）
理事長	原 浩（昭和54年～平成18年）
＜新伊那市＞	
会 長	小坂 樫男（平成18年～平成22年）
	白鳥 孝（平成22年～現在）
副会長	北原 明（平成18年～平成22年）
	久保村清一（平成22年～平成26年）
	北原 秀樹（平成26年～平成30年）
	笠原 千俊（平成30年～現在）
理事長	阿部 凱人（平成18年～平成26年）
	伊藤 易明（平成27年～平成31年）
	伊藤 直人（令和2年～現在）

■あゆみ（昭和63年～令和2年）

スポーツの振興に伴い、様々な競技において活動が活発化する中、本会への加入を希望する競技団体を随時迎えてきた。ゲートボール部（平成元年）、綱引部（平成4年）、マレットゴルフ部（平成8年）、ゴルフ部（平成9年）、ソフトバレー部（平成10年）、太極拳・気功部（平成11年）、トリムバレー部、カヌー部（平成14年）、合気道部（平成18年）、フットサル部（平成21年）。昨今、新しい競技も次々と誕生しており、スポーツがますます活性化、多様化する中で、今後も随時加入希望団体を受入れ、一層のスポーツ振興に寄与していきたい。

・記念事業

旧高遠町体育協会では、平成15年5月に創立25周年を記念して、全日本女子ソフトボールチーム監督宇津木妙子氏を招いて講演会を開催した。

・市町村合併（平成18年）

平成18年3月30日に、伊那市、高遠町、長谷村の3市町村が合併して新伊那市が誕生した。体育協会については旧伊那市と旧高遠町に組織されており、

協議の結果、高遠町体育協会が解散して伊那市体育協会に合流することとし、各部・関係団体同士が合併したほか、伊那市体育協会になかった競技団体（海洋部、パターゴルフ部、空手部）、高遠町公民館、長谷公民館を新たに加盟団体に迎えることとなった。また、併せて、伊那市体育協会会則の見直しを行い、各地区代表・各部代表・関係団体ごとに選出する理事の定員を3名以内から4名以内に増員、副理事長も4名から5名体制に拡充し、協会の運営に3市町村の関係者が広く参画できるよう体制を整え、平成19年4月に新たな伊那市体育協会として出発した。

・組織名称変更（平成31年）

スポーツが広く人々や社会に浸透する中、本協会では、スポーツを振興し、その価値を高める役割を担ってきた。社会のスポーツへの関心や期待がますます高まっていく中で、多くの人々のスポーツ参画を促し、スポーツという文化を後世に継承していくには、本会の名称を「伊那市スポーツ協会」に変更することがよりふさわしいと考え、平成31年4月1日をもって協会の名称を伊那市体育協会から伊那市スポーツ協会に変更した。

・全国規模の大会運営、招致

昭和53年に長野県の高校新人駅伝大会として始まった「春の高校伊那駅伝」は、令和3年3月の大会で男子44回、女子37回を迎え、今日では県内外の強豪校を含む多くの高校が参加する全国規模の高校新人駅伝大会として定着している。この大会は市内に大規模な交通規制をかけることから人員が多数必要で運営も非常に困難であるが、本協会陸上競技部をはじめ、加盟各部・各団体が協力し、大会の成功に貢献しているところである。令和3年3月28日には市道環状南線が開通し、今後も市道環状北線や伊那バイパスなどの新しい道路が開通予定である中、それらの道路を活用し、より多くの高校に参加していただける素晴らしいコースの設定が今後期待される。

また、伊那市では「ソフトボールのまち」として、長野県ソフトボール協会の事務局が伊那市役所内に席を置く中、昭和53年に長野県で開催された第33回国民体育大会「やまびこ国体」にて、伊那市、高遠町、南箕輪村合同でソフトボール会場を運営した経験を基に、毎年、伊那市に全国規模のソフトボール大会を数多く招致し、本協会ソフトボール部も全面的に運営に協力している。2028年に長野県で開催される第82回国民スポーツ大会、第27回全国障害者スポーツ大会では伊那市が再びソフトボール競技の大会会場に内定していることから、今後も引き続き全国規模の大会運営に協力し、国民スポーツ大会に向けた機運を醸成していきたい。

■今後の課題

近年、新しいスポーツが次々と誕生し、多種多様なスポーツの活動団体が増えており、隆盛な競技においては団体数も多い。このため、各団体が活動するにあたり体育施設の利用希望が重なることが多く、調整に苦慮している。

また、自家用車による移動頻度が高い今日においては、規模の大きい大会が開催される際には駐車場が不足することも多く、隣接する野球用グラウンドを駐車場として

使用する場合があるなど、本来の体育施設の利用用途から外れた嘆かわしい状況も見られる。

伊那市の財政的余裕は多くはなく、既存体育施設の維持管理にも多額の費用を要する中、体育施設の新設は極めて困難なものと思われるが、今後、より一層のスポーツ振興を図るためにも、有利な財源の活用、近隣市町村との協力等による体育施設整備の充実が望まれる。

駒ヶ根市スポーツ協会

1 沿革

【目的】

- (1) スポーツ振興及び市民の体力向上
- (2) アマチュアスポーツ精神の高揚
- (3) スポーツを通じた心身の健全なる発達と明るく豊かな市民生活の形成

【事業】

- (1) アマチュアスポーツ精神の徹底
- (2) 市民の体力向上及び競技者の技術力向上
- (3) 加盟団体の強化発展と相互の連携
- (4) 各種体育大会、講習会の開催及び援助
- (5) スポーツに関する施設（設備）の調査研究
- (6) 広報活動によるスポーツの普及
- (7) 対外的行事への競技者派遣
- (8) スポーツ功労者の表彰
- (9) その他必要な事業の執行

【役員】

会 長	1 名
副 会 長	若干名
理 事	若干名
内 理事長	1 名
副理事長	2 名
評 議 員	若干名
監 事	3 名



【加盟団体】(20団体)

陸上、野球、ソフトボール、ソフトテニス、バレーボール、卓球、バドミントン、バスケットボール、弓道、柔道、剣道、ホッケー、テニス、アーチェリー、ゲートボール、綱引、マレットゴルフ、太極拳、アマチュアゴルフ、スキー

【歴代役員】(昭和63年以降)

〈会長〉

中原 正純（昭和63年～平成19年）

北村 四郎（平成20年～26年）

林 憲明（平成27年～現在）

〈副会長〉

小池 深（昭和55年～平成元年）

北澤 良男（昭和62年～63年）

清水 一（昭和63年～平成8年）

澁谷 光弘（平成元～2年、5～8年）

木下 貞治（平成2～4年、9～16年）

大沼 一隆（平成3年～4年）

穂高 四郎（平成5年～10年）

松崎 隆道（平成5年～12年）

清水 博人（平成9年～18年）

山下 善廣（平成11年～18年）

北村 四郎（平成13年～19年）

赤須 和彦（平成17年～26年）

小山 典男（平成19年～20年）

城田 忠承（平成21年～26年）

林 憲明（平成25年～26年）

後藤 正一（平成27年～現在）

小出 洋平（平成27年～令和2年）

堀内 英昭（平成27年～現在）

西村 稔（令和3年～現在）

〈理事長〉

松崎 隆道（昭和51年～平成4年）

小山 典男（平成5年～18年）

大井 初己（平成19年～22年）

氣賀澤徳義（平成23年～26年）

武藤 文明（平成27年～30年）

高仲 成人（令和元年～2年）

下島 修（令和3年～現在）

2 あゆみ

【創立】

当市では、古くからスポーツが盛んであり、昭和22年以降各地区で体育協会が設立されていく中で、昭和29年

合併による「駒ヶ根市」誕生に伴い、市全体のスポーツ振興の中核として「駒ヶ根市体育協会」が設立された。

【経歴】

創立当初（野球部、陸上部、庭球部、籠排球部、スキースケート部、卓球部、山岳部、柔剣道部、弓道部、水上部）から、スポーツの多様化に伴い、加盟や脱退がある中で現在では20団体が加盟している。

各部ごとに自主事業開催や他大会出場など活動を盛んに行っており、全国大会にも多数出場し優秀な成績も多数収めており、スポーツ振興に寄与している。さらに、市民対象に事業開催及び激励金交付等を行い、市民の「人づくり」「健康づくり」「まちづくり」に貢献している。

平成16年には設立50周年を迎え、記念事業として元オリンピック選手の大林素子氏を招いた講演会を開催した。

令和元年には、「スポーツ」が体育や身体活動の概念を含むものと認識され、スポーツへの関心や期待が高まる中、多くの人々のスポーツ参画を促し、スポーツ文化を後世に継承していく組織として相応しくなるよう、名称を「駒ヶ根市スポーツ協会」に変更した。

【主要事業】

〈市民総合体育大会〉

昭和48年に県の県民運動競技大会に呼応して、第1回市民総合体育大会が開催され、以降現在まで継続している。「地区対抗」「個人」「オープン」の3種目を設け、区長会や公民館の協力のもと、市内在住の社会人や学生など幅広い年代が参加し、市全体で開催している。

本大会は、市民の健康維持をはじめ、地域間や世代間交流の場としても重要な役割を担う事業として位置づけられている。

〈マラソン大会〉

本大会は、大正14年の「駒ヶ岳山頂登山マラソン」、続く昭和33年の「中央アルプス駒ヶ根高原マラソン」の歴史を紡ぎ、平成25年に会場を駒ヶ根高原から街中に移し、現在の「信州駒ヶ根ハーフマラソン」となった。

「走る」「応援する」「支える」すべての人が参加者

として大会を楽しむ」をコンセプトに、全国各地から約4,000名のランナー集い、約1,000人のスタッフで開催及び運営している。「ハーフマラソン」「5 km」「3 km」の3種目で、小学生から高齢者まで幅広い年齢層が参加している。アールビーズスポーツ財団から発表される「全国ランニング大会100選」に幾度となく入選し、全国的にも高い評価を受けている。

本大会は市民の健康維持及び促進はもとより、市の広報や経済など多面的な効果をもたらしている。



【課題】

近年、スポーツの種類やスポーツに対する価値観の多様化が進み、競技者及び団体の細分化が進んでいる。それに伴い、施設数や設備の不足への対応及びニーズに合わせた既存事業の見直しが必要となってくる。

また昨今では、スポーツ庁が提唱する「運動部活動改革」において、部活動の地域移行が盛り込まれており、学校や児童生徒の意欲や要望も踏まえた人材確保や既存団体への受入要請及び環境整備など課題は山積みである。

このようなスポーツを取り巻く問題を総合的かつ持続的に解決していくためには、各競技者及び団体の要望や課題などを常に把握し、それらを広域的な視点や立場でまとめていく存在が必要不可欠となる。市のスポーツ活動を担う中核である組織として、本協会が前述の存在となれるよう、近隣市町村の協会と協力しながら、スポーツのニーズに合わせて、常に組織や体制を再構築し続けていかなければならない。

中野市体育協会

本協会のあゆみ

昭和29年7月 一町八カ村が大同合併して中野市が誕生し、翌30年8月、市民のスポーツ活動普及のため市単位で活動する12のスポーツ団体が加盟して中野市体育協会を発足した。

発足当初、市のスポーツ施設は野球場だけであつた

め、学校の校庭でできる野球やバレーボールを中心に地区や職域の大会を盛んにおこなった。

昭和37年 第1回市民体育祭を開催し、種目単位で行っていたそれぞれの大会を統一し、地区対抗で野球・バレーボール・バスケットボール・テニス・柔道・剣道・卓球の7種目をおこなった。（現在も支部対抗球技大会



として継続されている)

昭和40年 女性の競技が少ないことから、既婚女性対象にバレーボールと卓球大会を開催したところ、女性のスポーツ熱を高めることにつながりママさんバレーボール大会(昭和50年)に発展した。

昭和45年 発足以来の各行事の開催とクラブを育成し、市民の体育向上に努めた功績が評価され文部大臣表彰を受賞する。

昭和55年11月 壮年層のスポーツ活動を活発化するため、ソフトボール協会を発足させた。翌年4月に市営運動場に夜間照明施設が完成し、ソフトボール大会の開幕を迎えた。

昭和56年7月 体協野球部が全国大会に出場したことをきっかけに、スポーツ選手の育成支援のため、篤志者を募り体育協会賛助会を設立した。全国規模の大会への出場する選手に奨励金を贈り激励するようになった。

昭和63年4月 中野市スポーツ少年団が発足し、6月から組織の中に位置づけ、子供から高齢者までの生涯スポーツ団体としての体制を築いた。

平成2年 ジョギングによる健康づくりが盛んになり、市民ランナーによるマラソン大会が全国的に広まったことを契機に『晋平の里を走るカチューシャマラソン大会(現カチューシャふるさとマラソン大会)』を創設した。以降、毎年開催され市民や近県など各地からの参加がある。

平成17年 中野市・豊田村の市村合併により豊田村体育協会が加入し組織再編をおこなった。

平成19年 プロ野球独立リーグ 長野県民球団信濃グランセローズの本拠地を中野市営野球場に迎える。



平成20年 中野市スポーツ振興課内設置されていた本協会事務局が独立し、併せて中野市民体育館ほか17体育施設の管理運営をおこなう指定管理者となる。

平成24年 中野市多目的サッカー場が新設され、指定管理業務を受託する。

令和元年 カチューシャふるさとマラソン大会が第30回の記念大会を迎え、全国から1000名を超えるランナーが参加し盛大に開催した。



組 織

(1) 加盟団体 27団体

野球部、ソフトボール協会、排球部、バトミントン部、卓球部、バスケットボール部、サッカー部、テニス協会、ソフトテニス協会、陸上部、水泳部、柔道部、剣道連盟、銃剣道連盟、空手道連盟、山岳会、射撃部、乗馬クラブ、スキークラブ、弓道会、ゲートボール連盟、マレットゴルフ協会、ママさんバレーボール連盟、早起き野球連盟、トライアスロン協会、女子ソフトボール部、ダンススポーツ連盟

(2) 支部 10支部

中野、日野、延徳、平野、高丘、長丘、平岡、科野、倭、豊田

(3) スポーツ少年団 7団体

柔道、剣道、北部剣道、空手、サッカー、女子サッカー、中野シニアリーグ(硬式野球)

(4) 組織構成

- ・正副会長(会長・副会長4名)
- ・理事(正副理事長・理事32名)
- ・顧問5名、監事2名、代議員67名

事 業

(1) 各種目競技別大会の開催

- ・カチューシャふるさとマラソン大会
- ・中野市民水泳大会
- ・支部対抗球技大会
- ・中野市駅伝大会
- ・中野市民スキー大会
- ・各種目市長杯争奪大会、市民大会等

(2) 駅伝大会派遣事業

- ・長野県市町村対抗駅伝大会

- ・高社山一周駅伝大会
 - ・長野県縦断駅伝大会
- (3) 競技者・指導者レベルアップ事業
- ・ワンラックアップ講習会
- (4) スポーツ教室の開催
- ・初心者弓道教室
 - ・初心者弓道教室（中学生）
 - ・初心者テニス教室
 - ・市民スキー・スノーボード教室

指定管理業務

下記の17体育施設の管理運営をおこなう。

市営野球場、市営運動場、市民体育館、武道館、市営テニス場、弓道場、北部運動場、篠井川河川敷運動広場、コミュニティスポーツセンター、屋内運動場、豊田テニ

ス場、豊田野球場、豊田マレットゴルフ場、永田社会体育運動場、B&G海洋センター、北公園、多目的サッカー場



大町市体育協会

1 沿革

昭和29年7月1日、当時の大町、平、常盤、社の1町3村が合併して、大町市が誕生した。（その後、平成18年1月1日、八坂村及び美麻村が編入合併となり、現在に至っている。）

この市制施行に合わせて、大町市体育協会が発足した。それまで北安曇郡体育協会に加盟していたスポーツ団体や非加盟の団体が集まり、昭和29年12月18日設立総会を開催し、大町市体育協会が発足した。当時の加盟団体は、陸上競技、野球、バレーボール、バスケットボール、軟式庭球、卓球、水泳、山岳、スキー、スケート、弓道の11団体である。

当時の社会体育事業は、市教育委員会と市公民館が中心となり、それに各スポーツ団体等が協力して実施していたが、大町市体育協会の発足後は、市の事業等の運営、実施に積極的にかかわるようになった。

平成12年には、教育委員会体育課内に置かれていた体育協会事務局が独立し、事務所も勤労青少年ホームに移した。さらに平成30年4月からは、現在の第2屋内運動場に事務局を置いている。

地域スポーツ、生涯スポーツの振興が課題となっている現在、体育協会の役割もますます重要となっている。

2 歩み（昭和～平成～令和）

○昭和63年

運動公園総合体育館が11月に竣工し、運動公園として計画された施設はすべて完成となった。スポーツ、健康づくりの拠点として、また、市民の憩いの場として広く利用され、体育協会の事業推進に大いに役立ってきた。

○平成3年

6月、姉妹都市立川市（東京都）とのスポーツ交流懇談会が当市で開催された。以後、両市の間でスポーツ交流が盛んに行われている。

○平成6年

7月、市制施行40周年記念の市民スポーツ祭が開催された。体育協会の競技委員会を中心に、スポーツ少年団の協力で炬火リレーが行われ、開会式を盛り上げた。

12月、運動公園にコミュニティスポーツの拠点として期待される屋内運動場が完成

○平成8年

7～8月、第17回北信越国民体育大会の山岳、カヌー、サッカーの3競技が大町市で開催された。

9月、第46回大北縦断駅伝大会に姉妹都市の立川市及び氷見市（富山県）がオープン参加した。併せて各市体育協会間の交流が行われた。

○平成10年

1～2月、第18回長野冬季オリンピックの聖火リレーが市内6区間で行われ、聖火ランナーとして、体育協会関係3団体の代表8名が走った。

また、ボランティアの協力者として加盟11団体62名（延べ180名）が参加した。後日、長野県オリンピック組織委員会から、大町市体育協会に感謝状が贈られた。

○平成13年

9月、第15回全日本シニアソフトボール大会が大町市で開催される。

○平成14年

5月、第20回全国シニアソフトボール大会が大町市で開催される。2年続いての全国大会の開催となった。

9月、第1回大北スポーツ競技会を郡体育協会と共催により開催する。

大町アルプスマラソン実行委員会事務局が大町市体育協会となる。

○平成15年

10月、第7回全国ミニテニス交流信州大町大会が大町市で開催される。

総合型地域スポーツクラブの大町スポーツクラブが発足した。バレーボール、陸上競技、トータルスポーツに、合わせて101人が参加した。

○平成16年

11月、創立50周年を迎え、元プロ野球選手の中畑清氏の講演会を開催

○平成22年

3月、スポーツの啓発普及と競技力の向上を図るため、ソフトボールの上野由岐子氏の講演会を開催

11月、市民の健康づくりやスポーツへの関心を高めるため、元サッカー日本代表で評論家のラモス瑠偉氏の講演会を開催

○平成25年

大町市バレーボール協会が、平成25年度生涯スポーツ優良団体文部科学大臣表彰を受ける。

大町アルプスマラソンが30回目となり、記念大会として弘山晴美さんをゲストランナーに迎える。4,000人を超えるランナーが参加

○平成27年

創立60周年を記念し、元バレーボールオリンピック代表の吉原知子氏を招き講演会を開催

○平成28年

8月、リオ五輪バドミントン女子シングルスで、当市出身の奥原希望選手が銅メダルを獲得。パブリックビューイングで応援するとともに、帰省した際には祝賀パレード等で祝福

○平成29年度

10月、運動公園に第二屋内運動場が完成、冬期の屋外スポーツ、体力づくり等の拠点施設として期待される。

○平成30年

1月、奥原希望選手の活躍を記念し、ジュニアの国

際オープン大会（北アルプスバドミントンオープン2018）を開催。海外招待選手（3か国62名）を含め全国から502名が参加

バドミントン国内トップリーグ、S/Jリーグを1月末に開催。奥原希望選手の所属する日本ユニシスの試合を誘致したが、奥原選手は海外遠征のため欠場した。

○令和元年

7月、第2回北アルプスバドミントンオープン2019）を開催。国内外から15歳以下のジュニア選手が参加。各県トップクラスの選手により、レベルの高いゲームが展開された。

○令和2年

新型コロナウイルス感染症拡大のため、市民スポーツ祭、アルプスマラソンを始め、多くの大会が中止となった。唯一、冬季市民スポーツ祭のスキー大会が開催された。

●役員

・歴代会長

平林	泰雄	昭和29年～43年
片倉	甫	昭和44年～47年
縣	聡	昭和48年～52年
高橋	恭男	昭和53年～平成元年
中牧	豊光	平成2年～10年
降旗	正	平成11年～16年
田中	稔	平成17年～20年
竹村	武人	平成21年～22年
石原	学	平成23年～28年
島田	剛志	平成29年～現在

・現役員

会 長	島田 剛志
副 会 長	中島登美雄
”	赤羽 健次
”	菅沢 浩也
理 事 長	金原 宗雄
副理事長	三原 信治
事務局長	長澤 奨

飯水スポーツ協会



沿革

昭和61年5月、飯山市体育協会に豊田村体育協会、栄村体育協会を加え、飯水体育協会として長野県体育協会

に加盟した。飯水体育協会は、市村体育協会と密接な連携を保ち、住民の体育を指導奨励し、住民の体位向上を図ることを目的として設立された。

発足当初から年末懇談会を継続して開催し、情報交換の場としてきた。

平成17年豊田村と中野市との合併により、豊田村体育協会が飯水体育協会を脱退する。

令和2年4月1日、「飯水体育協会」を「飯水スポーツ協会」に名称を変更した。



あゆみ

- 昭和62年 長野県体育協会創立40周年記念表彰を、今清水昌昭氏が受賞
- 昭和62年 長野冬季オリンピック招致運動への協力（署名運動）
- 昭和63年 長野オリンピック招致委員会 事務次長 平林源治氏を講師に、講演会「広げようオリンピックの輪、語り合おう未来スポーツを」を開催
- 昭和63年 ソウルオリンピック視察研修
- 平成元年 元全日本女子バレーボールチーム主将 野口京子氏（旧姓 石田）を講師に、婦人バレーボール実技講習会を開催
- 平成2年 1998年長野冬季オリンピックに飯水地区より選手を送り出せるよう（勸）スポーツ医科学研究所 長野県スキー連盟トレーニングドクター 小林規氏を講師に、スキー指導者育成講習会「これからのスキー指導者に求められるもの」を開催
- 平成3年 長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰 有功賞を、丸山修三氏が受賞
- 平成3年 ベースボールマガジン社 堀場英孝氏（元プロ野球選手）を講師に、少年野球教室を開催（講演「ドリームからアクションへ」の後、実技指導）
- 平成4年 ミュンヘンオリンピック金メダリスト 森田淳悟氏講演会へ参加
- 平成5年 スキーの集い「オリンピック選手を囲んで（河野孝典氏）」へ参加
- 平成5年 長野県教育委員会より西山馥司氏、長野県体育協会より平林源治氏を講師に指導者研修会を開催、同時に前長野県スキー連盟会長 片桐匡氏を講師に、特別講演会「'98長野冬季オリンピックを成功させるには」を開催
- 平成6年 全日本スキー連盟複合チーム チーフコーチ 斉藤智治氏を講師に、講演会「オリンピックへの道！」を開催
- 平成6年 懇談会 前長野県スキー連盟会長 片桐匡氏を講師に、特別講話を開催
- 平成7年 佐久長聖高校野球部監督 中村良隆氏を講師に、講演会「甲子園への道のり」－甲子園を目指して、

たくましく成長した選手たち－を開催

平成8年 理事部長研修 オリンピック施設を視察

平成8年 第45回長野県縦断駅伝飯山下水内チーム7位入賞（16回大会6位以降チーム史上2位）



第1日目5位

平成8年 長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰 有功賞を、会長 菊池渡氏が受賞



平成9年 長野県体育協会副会長 林泰章氏（長野県スケート連盟会長）を講師に、講演会「長野冬季オリンピックを迎えて」を開催

平成9年 第46回長野県縦断駅伝 飯山下水内チーム7位入賞

平成10年 理事会研修 小千谷市総合体育館を視察

平成11年 飯水PTA連合会他と合同で、元オリンピックマラソンランナー 中山竹通氏を講師に、陸上講習会と講演会「私のマラソン人生」を開催

平成11年 元長野県体育協会専務理事 平林源治氏を講師に、講演会を開催

平成12年 飯山市国体室長 佐藤俊平氏を講師に、講演会「ながの飯山国体開催に向けて」を開催

平成13年 ながの飯山国体への協力

平成13年 長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰 有功賞を、川口雅司氏が受賞

平成13年 長野教育事務所生涯学習課指導主事 工藤忠好氏を講師に、講演会「生涯スポーツの現状と総合型地域スポーツクラブについて」を開催

平成14年 長野県体育センター専門主事 丸山智之氏を講師に、講演会「総合型地域スポーツクラブとは？」を開催

平成15年 豊田村施設視察及びマレットゴルフ交流会を開催

平成16年 元プロ野球選手の町田行彦氏と堀場秀孝氏を

講師に、飯水少年野球教室を開催



- 平成17年 豊田村合併に伴う飯水体協お別れ会兼縦断駅伝記念誌発刊祝賀会を開催
- 平成17年 ソフトバレーボール交流会を開催
- 平成18年 飯山市体育協会との共催事業として、日本体育大学教授 森田淳悟氏（ミュンヘンオリンピック金メダリスト）を講師に、講演会「スポーツは教育」を開催
- 平成19年 マレットゴルフ交流会を開催
- 平成19年 長野県体育協会創立60周年記念表彰を、宮澤要吉氏が受賞
- 平成20年 「栄村体育協会」から「さかえスポーツクラブ」に名称を変更
- 平成20年 長野県体育協会専務理事 小林健孜氏を講師に、講演会「地域スポーツクラブの育成と指導者の心構えについて」を開催
- 平成21年 岳北消防本部栄分署職員を講師に、普通救命講習会を開催
- 平成21年 長野県縦断駅伝「飯山下水内チーム」から「飯山栄チーム」にチーム名を変更
- 平成22年 信濃毎日新聞社運動部記者 中村恵一氏を講師に、講演会「地域スポーツの振興について」を開催
- 平成23年 ニューススポーツ講習会を開催

- 平成24年 ニューススポーツ講習会を開催
- 平成25年 第21回abnスポーツ大賞特別賞を、高橋政幸氏が受賞（マスターズ陸上 男子100メートルハードルM60で世界新記録達成）
- 平成25年 イシッタヨガ教室「yoga山」丸山沙樹氏を講師に、ヨガ講習会を開催
- 平成26年 長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰 有功賞を、飯山市硬式テニスクラブが受賞
- 平成26年 長野県体育協会事務局長 町田暁氏を講師に、講演会「“少年よ大志をいだけ”と言えますか？」を開催
- 平成27年 ネパール アロギヤ アシュラム ヨガインストラクター 井出ふみ子氏を講師に、ヨガ講習会を開催
- 平成28年 第14回日韓少年冬季スポーツ交流（スキー交流）への協力
- 平成28年 岳北消防本部栄分署職員を講師に、普通救命講習会を開催
- 平成29年 日本体育大学 集団行動監督 清原信彦氏講演会「人を創る－誰でもやればできる」を聴講
- 平成30年 2002年ソルトレーク冬季オリンピッククロスカントリースキー出場 畔上大地氏を講師に、講演会「オリンピックへの道～そこから得たものを今～」を開催
- 令和元年 飯山高校野球部部長 木村徹氏を講師に、講演会「統合から甲子園への道のり」を開催
- 令和2年 「飯山市体育協会」から「飯山市スポーツ協会」に名称を変更
- 令和2年 新型コロナウイルス感染防止対策のため、評議員会は書面議決とし、研修会等は中止。
- 令和3年 長野県スポーツ協会スポーツ振興功績者表彰 有功賞を、みゆき野少年野球連盟が受賞

特定非営利活動法人 茅野市スポーツ協会

1 沿革

昭和30年（1955年）に1町8村（ちの町、米沢村、玉川村、宮川村、北山村、湖東村、豊平村、泉野村、金沢村）の合併によりちの町が誕生し、同年4月1日にちの町体育協会が発足した。昭和33年（1958年）にちの町は市制を施行して茅野市となったため、茅野市体育協会と改称し、さらにその後茅野市体育連盟と改称された。

平成10年（1998年）頃より体育協会の法人化に対する



研究が行われ、平成12年（2000年）に特定非営利活動法人茅野市体育協会へと法人化された。当時体育協会の特定非営利活動法人としては国内第1号となったため、県内外から多くの問い合わせや視察が相次いだ。

その後、令和元年（2019年）に体育協会からスポーツ協会に名称変更され、現在の特定非営利活動法人茅野市スポーツ協会に至っている。

2 組織と役員

(1) 組織

現在のスポーツ協会の組織は、会長1名、副会長3名、専務理事1名、常任理事6名の役員と、監事2名、事務局員1名の体制となっている。

スポーツ協会の定款に謳われている目的は、「本会はスポーツを振興して市民の体力の向上とスポーツ文化の高揚を図り、民主的で文化的な社会の建設に寄与すること」である。その目的達成のため年1回の総会、年4会の理事会、役員会、各委員会とそれぞれ活発に活動しており、様々な催し物が年間を通して主催されている。

(2) 役員(2021年～2023年)

役職	氏名	所属
会長	宮坂 章	バスケットボール協会
副会長	中澤 三郎	マレットゴルフ協会
	澤井 久一	バレーボール協会
	伊藤あや子	女性委員会委員長
専務理事	鷹野 鉄也	少林寺拳法協会
常務理事	原 嘉樹	ソフトボール協会
	守屋 武	サッカー協会
	牛尼 正幸	ゲートボール協会
	池上 泰司	スケート協会
	辰野 誠一	バドミントン協会
	竹内ひかり	女性委員会副委員長
	伊藤 善彦	スポーツ健康課長
監事	鮎沢 英行	バスケットボール協会
	大沢 義治	ウォーキング協会
事務局員	佐竹ちずか	

常務理事はそれぞれ、総務委員、市民スポーツ振興委員、施設委員、競技力向上委員、スポーツ少年団育成委員の委員長を兼ね、その他に会計担当、学識経験者を置く。

3 茅野市のオリンピック選手

茅野市出身のオリンピック選手は、記憶に新しいところでは、平成30年(2018年)平昌冬季オリンピック女子500m金メダリストの小平奈緒がいる。茅野市の冬は雪が少なく寒さが厳しいのが特徴で、昔からスキーよりもスケートの方が盛んな土地柄である。そのため茅野市のオリンピック選手の第1号は、昭和27年(1952年)オスロ冬季オリンピックに出場したスケートの五味芳保で、以降スケートのオリンピック選手の総勢は10人を数える。スケート以外のオリンピック選手はバレーボール男子の井上謙が昭和63年(1988年)ソウル夏季オリンピックに出場しており、また、志鷹昌浩がチェアスキー競技で平成6年(1994年)リレハンメル冬季パラリンピックから3回連続で出場している。

スポーツ協会としても各団体の競技力向上を目標としており、早い段階での選手育成を目指し、13種目有るスポーツ少年団単位団についても、育成委員会等でバックアップできる体制を整えている。

4 構成団体

スポーツ協会に所属する団体は、発足時から増減を繰り返し、令和3年(2021年)現在29種目の協会が活動している。

No.	協会名	会長
1	空手協会	小池 敏高
2	柔道協会	小口 久人
3	剣道協会	藤原 利明
4	スキー協会	田村 和弥
5	スケート協会	池上 泰司
6	卓球協会	横内 秀光
7	ソフトテニス協会	今井 忠昭
8	バスケットボール協会	長谷川 孟三
9	バレーボール協会	澤井 久一
10	野球協会	藤森 昭芳
11	陸上競技協会	田中 米人
12	ソフトボール協会	原 嘉樹
13	弓道協会	増澤 徹二
14	山岳協会	宮坂 公久
15	ゲートボール協会	小平 紀之
16	テニス協会	小尾 富男
17	バドミントン協会	辰野 誠一
18	ゴルフ協会	両角 太一
19	サッカー協会	守屋 武
20	カーリング協会	福田 孝秀
21	宮川スポーツ協会	久保田 稔二
22	マレットゴルフ協会	中澤 三郎
23	居合道協会	山崎 勝
24	ウォーキング協会	大澤 義治
25	合気道協会	小池みはる
26	グランドゴルフ協会	塩練 洋之
27	インディアカ協会	木川 仁
28	少林寺拳法協会	鷹野 鉄也
29	ハンドボール協会	藤森 順三

5 茅野市スポーツ協会が行う事業

(1) 茅野市総合体育大会

茅野市スポーツ協会に所属するそれぞれの団体が大会長を市長として、4月から翌年の3月までの間に大会を行う。その総合開会式は6月第一日曜日に、全ての団体が集合し合同開会式が開催される。茅野市では1市民1スポーツを奨励していて、レベルの高い大会から、初心者が気軽に参加できる大会まで、数多くの種目がある。

(2) 茅野市民スポーツ祭

10月のスポーツの日に合わせ、各協会所属の会員が集い「市民がスポーツに親しむ日」ということで、茅野市総合運動公園陸上競技場で開催される。大玉送りや玉入れ、十人十一脚、長縄跳び等の「茅野ギネスに挑戦」コーナーもあり、子供からお年寄りまで沢山の協会員が集まり、スポーツを楽しんでいる。

(3) 各種教室

スポーツ協会主催又は共催の各種スポーツ教室を行っている。中でも、東海大学駅伝部の両角速監督が茅野市出身ということもあり、同部が合宿で茅野市を訪れる際、走り方を学ぶ教室を開いてもらっている。市民だけに限定していないため、諏訪地方から大勢のランナーが集まり、現役箱根駅伝ランナーから手ほどきを受けられるため、大変好評である。ちなみに茅野

市の白樺湖は湖周ランニングコースがあり、標高1,200mで高地トレーニングになり、また、夏も涼しい気候のため、東海大学の他にも多数の大学駅伝部が合宿に訪れている。

かつては平成元年（1989年）に、当時三段跳び世界記録保持者のW・バンクスを招いて陸上競技教室を開いたり、元プロ野球選手から手ほどきを受ける等、様々なスポーツ教室が開催されている。



(4) スポーツ体験実践発表会

平成19年（2007年）の第1回から13回を数えるこの発表会は、市内の小学生、中学生、高校生、大学生、社会人が、スポーツを通して体験又は実践したことについて、茅野市教育委員会、地元報道機関等の皆さまを審査員に迎え、持ち時間4分の弁論大会方式で行われる。毎年11月に行なわれ、自身が行なっている競技が、自身の生活においてどのような影響を与えているか、競技を行って良かった点等が発表され、多くの市民が視聴に訪れる。



(5) 表彰

スポーツ協会では表彰規程が定められており、4月の総会と、10月の市民スポーツ祭で会長より授与される。内容は、長年にわたりスポーツ協会の役職に従事し、誠実熱心に体育、スポーツの振興に貢献した者に対し功労賞を与え、県大会優勝、ブロック大会（北信越・東海5県大会等）3位以内、全国大会8位以内の者に対しては栄光章を与える。

特に栄光章については、全国大会で活躍する選手が多く、毎年多数の受賞者がある。

(6) 体育施設一斉清掃

毎年春・秋の2回、茅野市総合運動公園を協会員全員で、日頃の感謝の気持ちを込めて一斉清掃を行う。各協会下部のスポーツ少年団の選手から、指導員・顧問等も参加し、1,000人を超える参加者が集まり、盛大に清掃が行われる。

スポーツマン精神に則り、分担し合いながらてきぱきと作業を行う。

(7) スポーツ少年団

茅野市スポーツ少年団は昭和63年（1988年）に結成され、現在は13単位団で活動している。5月の結団式では目標達成シートを配布し、1年の目標、5年後の目標等を記入し、翌年2月の修了式に1年間の成長を指導員とともに確認を行なう。

また、茅野市スポーツ少年団では、競技力の向上だけでなく、相手を思いやれる心や、感謝の心を持って大会に出場するようメンタル面での指導に力を入れている。

6 スポーツ協会の今後

平均寿命が伸び、元気な高齢者が増えてきているため、各競技団体においても高齢化の波には逆らえない。また、スポーツ自体の多様化により、団体に属するよりも個人又は気の合う仲間での活動が増え、スポーツ協会に所属するメリットの希薄化も目立つようになってきた。

今後のスポーツ協会の取組みは、旧態依然としたものではなく、抜本的な対策も必要ではないだろうか。そして誰もが進んで携わってもらえるようなスポーツ協会にしていかなければならない。

茅野市・茅野市教育委員会では、平成30年（2018年）を初年度とした5ヶ年計画である「茅野市スポーツ推進計画」を策定している。スポーツ協会は行政の一翼を担う団体として、責任感と使命を持って運営することが望まれている。

特定非営利活動法人 塩尻市体育協会

1 塩尻市体育協会の創立

塩尻市体育協会は、昭和34年4月1日の1町4ヶ村の合併による塩尻市誕生に伴い創立された。

平成14年3月20日、特定非営利活動促進法に基づくNPO法人の認証を受け法人化し、特定非営利活動法人塩尻市体育協会として再出発して現在に至っている。現在、加盟団体は44団体、賛助会員139団体、正会員80名となっている。

2 社会体育のあゆみ（昭和62年以降）

- 昭和62年度 第1回ときめき市民ランドを中央スポーツ公園にて開催
- 昭和63年度 「1998年冬季オリンピックを長野へ」を合言葉に県下縦断炬火リレーに参加。テニス部が加盟
- 平成元年度 創立30周年記念事業（健康スポーツ都市宣言、元読売巨人軍投手堀内恒夫氏記念講演会、NHK巡回ラジオ体操、第1回ファミリースポレクフェスティバル）
- 平成2年度 グラウンドゴルフ部が加盟
体育協会会長に三沢光広市長が就任
- 平成3年度 冬季オリンピックの開催地が長野に決定
- 平成4年度 合気道部が加盟
- 平成5年度 第1回アルプス展望ロードレース大会を小坂田公園で開催
吉田地区体育協会、マレットゴルフ部が加盟
- 平成7年度 第1回ゴルフオンパレード大会を開催
冬季オリンピック長野大会100日前イベント・炬火リレーを実施
- 平成8年度 第1回いきいきスポーツフェスタを中央スポーツ公園で開催
塩尻市小・中学校体育連盟が発足
- 平成10年度 長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催
- 平成11年度 創立40周年記念事業を実施
元マラソン選手 松野明美氏講演会開催
40周年記念誌を発行
- 平成13年度 特定非営利活動促進法に基づくNPO法人の認可申請を行い、平成14年3月20日に法人認証される。
- 平成14年度 特定非営利活動法人塩尻市体育協会を設立し、竹林敏博氏が継続して会長に就任
記念事業、講演会「元プロ野球阪神監督中村勝弘氏」を開催
- 平成15年度 スポーツ議員連盟が発足
- 平成16年度 いきいき体育学園を開設
- 平成17年度 檜川地区体育協会、高出地区体育協会が加盟
新体育館建設促進署名活動を行い、2万509人の署名



が集まる

- 平成18年度 トリノ五輪スケートショートトラック出場 小澤美香選手の激励壮行会を開催
- 平成19年度 新体育館建設基金の寄付募集を実施し、寄付者1万2千人余、寄付総額439万円余となり、市へ寄付
- 平成20年度 創立50周年記念事業を実施。記念講演会開催、講師 ソルトレイク五輪他出場スケートショートトラック勅使河原郁恵氏とソウル五輪競歩出場酒井浩文氏
- 平成21年度 創立50周年記念事業を実施、50周年記念誌発刊
第1回ぶどうの郷ロードレース開催
バンクーバー冬季五輪出場小澤美香選手壮行会開催
- 平成22年度 第1回日本どまん中塩尻チロルの森ウォーク2010開催
- 平成23年度 体育協会会長に倉沢恒雄氏が就任



- 平成24年度 日本スポーツ吹き矢塩尻支部が加盟
- 平成26年度 本年度よりスケート大会が塩尻・朝日・松本と合同開催となる
- 平成27年度 塩尻市スポーツ少年団創設40周年記念事業、記念誌を発刊
- 平成29年度 体育協会会長に小松千万蔵氏が就任
第1回新体育館建設懇話会（～第4回）開催
平昌パラリンピックアイスホッケー出場者塩谷吉寛選

手壮行会・応援パブリックビューイング開催

○令和元年度

体育協会長に丸山智之氏が就任



令和元年度総会（H31.4）



創立60周年記念事業実施、記念講演会開催（北京五輪陸上400mリレー銀メダリスト塚原直貴氏）

12月頃より新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、スポーツ活動、経済活動に大きな支障が出る。

○令和2年度 新型コロナウイルス感染症の影響で定例総会を书面決議により開催

○令和3年度 塩尻市総合体育館ユメックスアリーナが開館

3 課題と展望

○児童生徒の体力・スポーツ活動

「子どもの体力・運動能力等調査（令和元年度）」によると多くの項目で全国の中で長野県は下位に位置している状況である。

○成人の週一回以上のスポーツ実施率

塩尻市の平成29年度の実施率は40％であり、国・長野県と比較するとそれぞれ15・9ポイントと大きく下回っている。

この2点を、行政と連携して向上策を講じることが求められている。

4 役員（昭和61年以降）

○会長 川上 睦水 昭和54年～平成2年

三沢 光広 平成3年～12年

竹林 敏博 平成13年～22年

倉沢 恒雄 平成23年～28年

小松千万蔵 平成29年～30年

丸山 智之 平成31年～現在

○副会長 川上 直美 昭和60年～平成元年

古牧 勲 昭和60年～平成8年

横山 興夫 平成元年～2年

森 儀平 平成3年～4年

百瀬 勝一 平成3年～6年

川尻 正文 平成3年～4年

中原 宏 平成5年～6年

米山 廣 平成5年～16年

倉沢 恒雄 平成7年～16年

中野 学 平成7年～8年

高木 春喜 平成9年～12年

武井 深 平成9年～13年

平林 綾子 平成9年～16年

青柳 武人 平成17年～18年

高砂 礼次 平成17年～22年

小澤 良子 平成17年～22年

安田 昌平 平成19年～20年

金井 盛吉 平成21年～22年

古厩 久登 平成23年～26年

高橋 忠人 平成23年～28年

小澤なつ子 平成23年～現在

北澤 健司 平成27年～現在

奈良井宏美 平成29年～30年

嶋崎 光尚 平成31年～現在

○常任理事 林 敏明 昭和60年～昭和62年

永原 高雄 昭和62年～平成元年

小野 克夫 平成元年～3年・6年

武井 範治 平成4年～5年

横山 哲宣 平成7年～8年

小野 克夫 平成9年～10年

飯田 正弘 平成11年～13年

○事務局長 津田 清 平成4年～5年

小野 貞雄 平成6年～9年

南山 壽勝 平成10年～12年

永井 泰仁 平成12年～13年

手塚 啓子 平成14年

○専務理事・事務局長

武井 深 平成15年～22年

奈良井宏美 平成23年～28年

寺澤 好則 平成29年～現在

特定非営利活動法人 佐久市体育協会

◎沿革

昭和36年佐久市発足と同時に佐久市体育協会が設立発足しました。その後平成17年（旧）佐久市、南佐久郡白田町、北佐久郡浅科村・望月町が新設合併して（現）佐久市が発足と同時に、（旧）佐久市体育協会、白田町体育協会、浅科村体育協会、望月町体育協会も合併し（現）佐久市体育協会が設立しました。平成17年設立時には35の競技団体と4つの支部が加盟しました。当時基本的な考え方として各競技団体においてもそれぞれに合併して各競技一団体の方向性をもって調整をしました。

平成28年には「特定非営利活動法人（NPO法人）佐久市体育協会」となりました。これは平成2年にスポーツ都市宣言をした佐久市が、「生涯スポーツの拡大を図るためには陸上競技場を始め各種スポーツ施設の充実を進めるとともに、スポーツ人口の拡大と競技力の向上を図る必要があり、今後様々なニーズへの対応にあたり、佐久市に合ったスポーツ振興を図るため、佐久市体育協会の組織体制を早急に整備する必要がある」と考え、法人化に向け支援・補助をすることとなりました。そこで当協会は、「法人格を持つ」と「佐久市体育施設指定管理者となる」を2本柱として検討を重ね、既存の体制の特色を生かしつつ改善する方策として「特定非営利活動法人（NPO法人）」とすることとしました。現在は34の競技団体と4の支部が加盟し活動しています。また市の体育課に置いていたスポーツ少年団の事務局を当協会に移し、活動・育成を図ることとしました。

佐久市におけるスポーツ環境も変化し、昭和63年以降でいえば広大な河川敷グラウンドの千曲川スポーツ交流広場、浅間体育センター、野沢体育センター、佐久総合運動公園（陸上競技場・野球場・マレットゴルフ場・クロスカントリーコース）、県営武道館など新たな施設が設置され、全国規模の大会等が開催されるようになりました。また老朽化した施設の補強改築も進められ弓道場などが整備されました。これに伴い佐久平の人々がスポーツを楽しむ場が広がり、様々なグループの育成にも寄与することとなりました。このように児童・学生・社会人の練習の場が整備され、ナイターの活用などにより競技力の向上に格段の進歩がなされました。当協会も市内44施設の指定管理を行い、「利用者が安心して安全に利用できること」「利用者を大事に考え市民・競技団体と信頼関係を築くこと」「特定の競技部・団体が優先的にならないこと」を大切にして業務遂行することとなりました。

◎あゆみ

昭和63年以降では、平成3年に佐久市体育協会30周年を記念しての記念誌を発行、全国夏季巡回ラジオ体操会

の開催、オリンピック金メダリストの小谷実可子さんの講演会を開催、30周年記念としての各種競技団体の開催等日夜多彩な活動を展開し一般市民の理解と共感を得ながら、スポーツに対する社会全般の評価を高めました。

友好都市の静岡県清水市とは昭和59年よりスポーツ交流会が続いています。隔年ごとに佐久市と清水市が交互に会場となり、交流会を行っています。競技種目も、婦人バレーボール・継走マラソン・軟式テニスなど変遷を重ねながら、現在は婦人バレーボール・少年野球などの競技が行われ、参加者の親睦と技術を高める大会となっております。

同じく、交流都市の埼玉県和光市とも平成5年よりスポーツ交流会が続いています。こちら、隔年ごとに佐久市と和光市を会場にして開催されています。少年サッカー・少年野球・ミニバスケットボールなど主に子供たちの競技が行われ、親睦と競技力の向上を図っています。

平成6年、民間施設のスキーガーデンパラダがオープンし、佐久市に初めてスキー場が誕生しました。これまで佐久市におけるウインタースポーツはほぼアイススケートが占めておりましたが、スキー大会・教室の開催が市内で開催可能となり競技人口の増加・競技力向上のきっかけとなりました。佐久市スキー大会なども開催されております。

平成16年、アテネオリンピック女子バスケットボール日本代表チームが合宿を佐久市にて行いスポーツ少年団の子供たちや中学・高校生たちにバスケットボール教室を開催し、競技力の向上を図りました。

平成18年、合併の1周年記念としてオリンピック金メダリストの斎藤仁氏の講演会が開催されました。また1周年記念の各種競技大会を開催し活発な活動を続けました。

平成25年、佐久総合運動公園の陸上競技場が日本陸上競技連盟公認第2種競技場として開場しました。オリンピック金メダリストの高橋尚子さんを招いて市民ランナーと一緒に走る会を開催して、陸上競技場をアピールするとともに市民ランナーに参加していただくことによって、スポーツに親しむ方を一人でも多く増やしたいと開催しました。ナイター設備もあることから、学生・社会人の練習場として日夜稼働させています。また、クロスカントリーコースも開場して長距離競技の核として活用しています。小学生年代では、小学生駅伝大会を毎年開催、市民ランナーには毎年元旦マラソン大会や佐久鯉マラソン大会を開催し、長距離走が根付く街を目指して開催しています。

令和2年、長野県営武道館が開場し、コロナウイルスの影響で利用状況はかんばしくありませんが、柔道・剣道はじめ各武道のスポーツ少年団や学生たちが練習の拠点として活動し各種教室も行われています。

このように施設・環境が整ってきている中、当協会もスポーツを振興し、市民の体力向上を図り、スポーツ文化の高揚に努力してスポーツ精神を養うことに寄与することを目的として、次の事業を行っています。

「スポーツのアマチュア精神の高揚並びに
スポーツに関する情報の収集、広報及び啓発」
「市民の体力向上、競技技術及び競技力の向上」
「スポーツに関する各種競技大会、講習会及び各種事業の
計画実施並びにスポーツに関する各種大会の援助」
「佐久市が委託するスポーツ大会の開催及び
スポーツ施設の管理運営」
「スポーツ少年団の育成」

この5本柱を軸にコンプライアンスを守りながら佐久市民のスポーツライフがより充実すべく活動しています。



特定非営利活動法人 千曲市スポーツ協会

千曲市体育協会は、平成15年（2003年）8月に、翌9月の市町村合併を見据えて発足した。（平成の大合併：更埴市・戸倉町・上山田町の1市2町は、平成15年9月1日に合併した。当時の人口は約64,000人）

それから約1年後、千曲市体育協会は、地域のスポーツ振興に向けて、組織強化、スポーツ施設の指定管理者になりうる体制づくりのため、協会の法人化に向けた検討を始めた。

平成16年12月には、法人化に向けた検討委員会を発足、17年には準備委員会により諸準備を進め、平成17年11月17日に「特定非営利活動法人千曲市体育協会」を設立した。

翌年、平成18年2月20日、長野県から正式に特定非営利活動法人としての認証を受けた。

千曲市体育協会は、合併前からの各市町村協会の加盟団体の統合を進め、それまで実施してきた市民が参加する様々な競技大会の充実を図るとともに、子どもたちの健康づくりのための「スポーツ教室」を開催したり、協会としての活動のほか、「スポーツ少年団活動」に協力するなど、千曲市が主催、あるいは共催する事業にも積極的に協力してきた。

特に、千曲市との共催事業の「元旦マラソン」や「市民体育祭」総合開会式から大会の運営を加盟団体が担い、旧戸倉町から続いていた「千曲川ロードレース」、旧更埴市が実施していた「おぼすてマラソン」、「小中学校駅伝大会」などに携わってきた。

また、「千曲川ロードレース」を引継ぐ形で、平成27年3月に新たにスタートした「千曲川ハーフマラソン」にも積極的に協力をしてきた。

法人となってからは、より積極的に地域スポーツの振興を目指し、新たな協会の事業として、平成23年から「市民登山」を実施、多くの市民が参加され好評を得ている。

さらに、平成25年からは、小さな子どもから大人まで、

さまざまな年齢の方がグループで参加できる「チャレンジスポーツ事業」をスタートさせ、市民の体力づくりの一翼を担った。

競技だけでなく、協会員のスポーツ振興への取組むための意識の向上を目指した「パネルディスカッション」やスポーツ指導者としての学習のための「スポーツ講演会」なども開催してきた。

NPO法人設立の大きな目的でもある指定管理については、平成23年度から3年間、更埴地区の体育館、テニスコートなどの指定管理者となり、事務所も戸倉体育館から更埴体育館に移転し、施設利用者にとってより利用しやすい管理に努め、平成25年度からは、それまでの指定管理の実勢を認めていただき、2期目の指定管理者となることができた。そして、本年度（令和3年度）は、4期目の2年目に入った。

千曲市では、平成21年度に「千曲市スポーツ振興基本計画」が策定され、（平成25年度には中間の見直しをされた。）子どもから大人まで、市民が広くスポーツに親しめるための様々な事業を計画的に進めるとしている。

また、平成24年には、スポーツに親しみ健康な体づくり、スポーツをとおして子どもたちの健全育成、活気ある地域づくりを目指すとし、千曲市となって初の「千曲市スポーツ・健康都市」の宣言がなされた。

千曲市をホームタウンとするプロバスケットボールチーム「信州ブレイブウォリアーズ」（平成11年発足）は、年々市民の関心も高まり、2018-2019にB2優勝を果たしたが、B1ライセンスの取得ができずにB2での再挑戦が始まった。そして、2019-2020には、B2中地区優勝を果たし、B2勝率1位及びB1ライセンス取得により、2020-2021にB1昇格が決まった。

なお、ことぶきアリーナ千曲は、ホームゲーム会場となっている。（他は、ホワイトリング、松本市総合体育館）

平成30年には、新体育館（ことぶきアリーナ千曲）が完成し5月31日に千曲市に引き渡され、9月11日からは一般開放された。

また、平成30年度の通常総会で、「千曲市スポーツ協会」への改名が了承され、県への申請を行った。

令和元年10月13日、台風19号により、更埴文化会館や一般住宅等で甚大な被害を受けたが、体育館や市役所は水害を免れた。一時、市役所も一般の方が避難された時もあった。

今後、利用者が多い更埴体育館は、これまで以上に利用しやすい施設として、千曲市スポーツ協会が指定管理として、適正管理を行っていき、市民とともに歩んでいきたい。

歴代役員名簿（平成17年度～）

◎平成17・18年度

会 長：下崎 保

副 会 長：滝沢 弘、寺澤 松雄

専務理事：林 幸彦

理 事

諏訪 清春	小林 重之	小野 伴江
久保 義貴	五十嵐忠雄	山田 健二
佐々木一則	上原 武	山崎 章
大家 孚	立川 清士	松澤 和夫
丹羽二三雄	黒岩 啓介	小出 義宗
渡辺 幸子	川原 利秋	柳町 和幸
柳澤 清一	中山 利夫	
北村千江子	中曽根 剛	
宮本 繁	西村 光男	
宮入 好盛	近藤 孝男	
山田 正文	中曽根 浩	

監 事：宮坂 登、竹内 長生

役 職	平成19・20年度	平成21・22年度
会 長	滝沢 弘	滝沢 弘
副 会 長	赤地 憲一	赤地 憲一
副 会 長	小宮山 久	小宮山 久
専務理事	林 幸彦	林 幸彦
理 事	石井 孝男	石井 孝男
理 事	北澤すみ江	北澤すみ江
理 事	君島真由美	君島真由美
理 事	黒岩 啓介	黒岩 啓介
理 事	小出 義宗	小出 義宗
理 事	立川 清士	立川 清士
理 事	中山 利夫	塚田 訓好
理 事	丹羽二三雄	西村千代松
理 事	宮本 繁	丹羽二三雄
理 事	柳町 和幸	宮本 敏保
理 事	山崎 章	柳町 和幸
監 事	寺澤 松雄	寺澤 松雄
監 事	大家 孚	大家 孚

役 職	平成23・24年度	平成25・26年度
会 長	滝沢 弘	清水 國利
副 会 長	清水 國利	小宮山 久
副 会 長	小宮山 久	塚田 訓好
専務理事	林 幸彦	林 幸彦
理 事	石井 孝男	金井 智弘
理 事	北澤すみ江	工藤 弘行
理 事	君島真由美	小出 義宗
理 事	小出 義宗	小林由美子
理 事	立川 清士	立川 清士
理 事	塚田 訓好	田中 勇次
理 事	西村千代松	西村千代松
理 事	丹羽二三雄	丹羽二三雄
理 事	丸田 幸英	宮下正位喜
理 事	宮本 敏保	宮本 敏保
理 事	柳町 和幸	渡辺 幸子
監 事	黒岩 啓介	北澤すみ江
監 事	大家 孚	黒岩 啓介

役 職	平成27・28年度	平成29・30年度
会 長	清水 國利	寺澤 和治
副 会 長	小宮山 久	永井 知行
副 会 長	塚田 訓好	塚田 訓好
専務理事	林 幸彦	林 幸彦
理 事	工藤 弘行	唐木沢利幸
理 事	小出 義宗	工藤 弘行
理 事	小林由美子	久保 吉人
理 事	立川 清士	小出 義宗
理 事	田中 勇次	小林由美子
理 事	寺澤久仁彦	佐藤 公治
理 事	西村千代松	鈴木 功
理 事	丹羽二三雄	立川 清士
理 事	宮島 信明	田中 勇次
理 事	宮本 敏保	西村千代松
理 事	渡辺 幸子	宮坂 尚敏
理 事		宮本 敏保
理 事		和田 義宣
監 事	北澤すみ江	丹羽二三雄
監 事	黒岩 啓介	渡辺 幸子

役 職	令和元・2年度	令和3・4年度
会 長	寺澤 和冶	塚田 訓好
副 会 長	永井 知行	永井 知行
副 会 長	塚田 訓好	北澤 和明
専務理事	林 幸彦	林 幸彦
理 事	吉池美由紀	和田 義宣
理 事	久保 吉人	松林 規昭
理 事	和田 義宣	松坂 修
理 事	小林由美子	西村千代松 (R3.10逝去)
理 事	西村千代松	原田 明乗
理 事	宮坂 尚敏	豊城 勇
理 事	立川 清士	立川 清士
理 事	佐藤 公治	土屋 厚
理 事	唐木澤利幸	山田 兼二
理 事	宮本 敏保	堀内 登
理 事	工藤 弘行	水井 義典
理 事	鈴木 功	小林 永知
理 事	山田 兼二	工藤 弘行
理 事	小出 義宗	中村 正直
理 事	中村 正直	
監 事	丹羽二三雄	吉池美由紀
監 事	渡辺 幸子	鈴木 功



(更埴体育館)

特定非営利活動法人 東御市スポーツ協会

1. 設立経緯

平成16年4月1日、東御市誕生と同時に市民のスポーツ振興体力の向上及びスポーツ文化の高揚を図ると共に健康で明るく豊かな社会の建設に寄与することを目的に、東部町体育協会、北御牧村体育協会が合併し東御市体育協会が設立しました。

設立以来、東御市行政と車の両輪となって協調連携しながらスポーツの普及、スポーツ文化の振興そして競技力の向上に努め、市民から一定の評価を得てきました。

また、任意団体であるため、組織の拡大強化、財務基盤の確立、運営の合理化等思うに任せない状況でありましたが、平成20年4月1日行政から独立した事務局を設置し、組織基盤の整備を着々と進めてきました。このような状況の中、指定管理の要望を市に提出した事に伴い各加盟協会より、一層の信頼性の確保、組織の拡大強化、財務基盤の確立等を図るために法人化の方向が望ましいとの声が多く、検討の結果、特定非営利活動法人として活動を展開することとなり、同年9月22日、長野県の認可を頂き同月29日特定非営利活動法人東御市体育協会が誕生しました。

令和2年7月、「スポーツ」という言葉が「体育」という概念をも包括した広義の言葉として広く浸透してきたことから、「特定非営利活動法人東御市体育協会」から「特定非営利活動法人東御市スポーツ協会」に名称変更をしました。

以来、更なるスポーツ文化の振興と市民の健康、体力向上、競技スポーツのレベルアップ、市民スポーツの普及推進に幅広い活動を展開しております。



2. あゆみ（昭和63年～平成15年は東部町体育協会） 昭和63年

- ・新たにヘルシーダンス、弓道、マレットゴルフ、山岳協会が加盟する。
- ・体協創立15周年記念式典を挙行

平成元年

- ・早起き野球連盟創立20周年記念事業で20時間野球大会を開催

平成2年

- ・神津敬次氏が第三代会長に就任
- ・賛助会員との親睦ゴルフ大会開催
- ・湯ノ丸スキークラブ創立30周年記念式典開催

平成3年

- ・新たにビーチボール協会が加盟する。
- ・ソフトボール協会創立15周年記念大会開催

平成4年

- ・町民ゴルフ大会を2日間で実施
- ・バレーボール協会創立20周年記念大会開催
- ・仮設弓道場、屋内ゲートボール場の増設工事が行われる

平成5年

- ・体協創立20周年式典を挙行

平成6年

- ・飯島孝夫氏が第四代会長に就任

平成7年

- ・ソフトテニス協会創立30周年記念事業挙行

平成8年

- ・弓道場落成記念祝射会を行う
- ・山岳協会創立20周年記念誌「籠の登」発行
- ・ソフトボール協会20周年記念大会開催

平成9年

- ・陸上協会創立20周年記念式典開催
- ・マレットゴルフ協会創立20周年大会開催
- ・第20回東部町町民ゴルフ大会開催

平成10年

- ・柳橋勝氏が第五代会長に就任
- ・体協創立25周年記念式典を挙行

平成11年

- ・早起き野球連盟30周年大会大田区で開催
- ・体育館建設の為、山梨県白州町体育館視察
- ・町民ゴルフ大会の参加者が500人超える
- ・オムニテニスコート完成（8面）

平成12年

- ・ビーチボール協会創立10周年記念大会開催
- ・オムニテニスコートで各種大会開催
- ・念願の第一体育館の工事始まる

平成13年

- ・第一体育館完成し各種記念大会開催
- ・「体協とうぶ」発刊第20号より一部をカラーとする
- ・プロ野球OB9名による少年野球教室開催

平成14年

- ・唐沢光章氏が第六代会長に就任
- ・総合体育大会が25回目を迎え17種目に2000人が参加
- ・ふわっとテニス協会が加盟

平成15年

- ・体協創立30周年記念式典挙行

平成16年

- ・東部町と北御牧村が合併により東御市が誕生、同日「東部町体育協会」と「北御牧村体育協会」が合併

し「東御市体育協会」が設立される。構成団体25団体、同日、唐沢光章氏が初代会長に就任

平成17年

- ・東御市行政改革プランが策定され、体育施設等指定管理者制度導入の検討が始まり、体育協会も役員中心に指定管理制度と法人化の検討を始める。

平成18年

- ・小山剛氏が第二代会長に就任
- ・待望の海野マレットゴルフ場完成

平成19年

- ・芝生広場外周にランニング・ウォーキングコース完成
- ・総会にて、「指定管理制度に関する調査研究」を決議

平成20年

- ・指定管理者指名要望を市へ提出
- ・市行政から独立した事務所を設置
- ・体育協会通常総会にて、特定非営利活動法人設立を決議
- ・県知事から特定非営利活動法人に認証され、特定非営利活動法人格取得
- ・東御市体育協会創立5周年・特定非営利活動法人認証記念事業及び式典開催

平成21年

- ・スポーツ少年団「日独交流事業」を実施

平成22年

- ・鶴田武夫氏が第三代会長に就任
- ・東御市長へ体育施設等指定管理者に指名要望書提出
- ・東御市へ公の施設に係る指定管理者指定申請書提出

平成23年

- ・東御市議会の議決を経て、東御市体育施設等指定管理者の指定を受ける
- ・体育施設指定管理業務を開始（3年間）
- ・太極拳協会が加盟

平成24年

- ・中央公園グラウンド照明施設改修工事完成

平成25年

- ・中央公園テニスコート芝生張替え工事完成
- ・体育協会創立10周年記念事業及び式典開催

平成26年

- ・第2期体育施設等の指定管理業務開始（5年間）
- ・チャレンジデー2014に初めて参加

平成27年

- ・ユニバーサルスポーツクラブが加盟

平成28年

- ・水泳協会が加盟

平成29年

- ・中央公園に「くじら噴水」完成

平成30年

- ・第一体育館にて「大相撲雷電場所」が開催される

平成31年（令和元年）

- ・第3期体育施設等の指定管理業務開始（5年間）

令和2年

- ・中堀雅夫氏が第四代目会長に就任
- ・通常総会にて定款の改正、名称変更登記届けをし長野県知事の認証をうけ「特定非営利活動法人東御市体育協会」から「特定非営利活動法人東御市スポーツ協会」に名称変更

令和3年

- ・6月現在 加盟協会28団体 会員数2,683人
柔道、ソフトテニス、陸上競技、湯ノ丸スキークラブ、マレットゴルフ、ふわっとテニス、バドミントン、弓道、サッカー、卓球、バレーボール、ソフトボール、空手、バスケットボール、ヘルシーダンス、ビーチボール、山岳、早起き野球、ソフトバレー、

テニス、ゲートボール、太極拳、ユニバーサルスポーツクラブ、グラウンドゴルフ、剣道、ゴルフ、水泳、スポーツ少年団

3. 歴代役員

・会長

石井 補人	昭和48年～60年
戸堀 武之	昭和61年～平成元年
神津 敬次	平成2年～5年
飯島 孝夫	平成6年～9年
柳橋 勝	平成10年～13年
唐澤 光章	平成14年～17年
小山 剛	平成18年～21年
鶴田 武夫	平成22年～令和2年
中堀 雅夫	令和2年～現在

特定非営利活動法人 安曇野市スポーツ協会

1 発足までの経過

昭和20年、敗戦により戦時体制一色から180度転換して、体育スポーツを通じて健康の保持増進のための社会体育が生活の中に取り入れられるようになり、各種スポーツクラブの同好者の集いや、クラブ団体が主催した大会等が行われるようになった。昭和23年4月1日に前身の南安曇郡体育協会が発足した。また各町村の体育協会が、昭和25年に豊科町、安曇村に、昭和28年に穂高町、昭和36年に梓川村に、昭和38年に三郷村、堀金村に、昭和43年に奈川村にと順次設置され、各町村体育協会と相互に連絡しつつ郡体育協会が発展してきた。

—前回の県体育協会史より一部抜粋—

平成17年10月に旧南安曇郡豊科町、穂高町、堀金村、三郷村と旧東筑摩郡明科町の3町2村が合併して安曇野市が誕生。半年後の平成18年4月8日に豊科・穂高・堀金・三郷・明科の5地域体育協会と16競技団体が構成する安曇野市体育協会が設立され、初代会長には渡辺展猛氏が就任した。

設立に伴い、旧南安曇郡体育協会を解散し、新たに安曇野市体育協会が、平成18年5月10日付で長野県体育協会への加盟が承認された。

発足当初は、市教育委員会事務局内に事務所を置き、合併前と同様に市行政職員が事務局業務を担当する形で運営されていた。この間に財源の確保及び事業推進にかかわる経費の算定基準等に関する基本方針の策定、会計規程、専門委員会規程、表彰規程等諸規程の策定を進め、協会運営の基盤づくりに努めてきた。

しかし任意団体である安曇野市体育協会の業務をいつまでも行政に依存しているわけにいかず、市からも自立運営を求められていた。そのためには、事務所の場所と、

行政職員に代わる事務局業務担当者を確保することが必要であった。場所については、市教育委員会から豊科地域社会体育施設利用窓口業務の委託を受け、その業務と併せて体協事務局業務を豊科勤労者総合スポーツ施設体育館事務室で行うことにより解決。

事務局業務担当者は1名を公募により、もう1名は常務理事に体協から手当を支給することにより確保し、平成21年4月1日に新たな事務所において、行政より独立した団体としての活動を始める。

平成22年からそれまで行政職員が担当していた安曇野市スポーツ少年団の事務局業務を体協事務局で担当することになり、新たに体協職員を1名採用した。そのため豊科勤労者総合スポーツ施設体育館事務室は手狭となったため、堀金総合体育館事務室の一部を借用し事務所を設置することになり平成22年4月1日から業務を開始した。

平成22年6月15日に開催された代議員会において本体協発足以来2期4年間会長を務めた渡辺展猛氏が退任し、第二代会長に下里安生氏が選任された。

発足以来の4年間で本体協の運営体制がほぼ整えられ、平成22年度からは事業の充実を重点課題とし以下の事業を計画、実施し現在まで継続している。

○平成22年6月28日 第1回安曇野市民スポーツ祭開催（主として種目別競技会担当）

○平成23年3月31日 本協会広報誌創刊号発行

○平成24年3月31日 本協会ホームページ開設

○平成24年度から

- ・スポーツ教室開催（24年度9種目・14教室開催）
- ・本協会表彰内容に中高校生を対象とする奨励賞部門を新設

○平成25年度から指導者研修会を開催

第1回 8月17日スポーツ医学研修会

講師：元長野県衛生部長

日体協公認スポーツドクター

長野県協議会会長（当時）

古川善行先生

その他：スポーツ障害防止研修会、
救急救命講座 等

2 特定非営利活動法人 安曇野市体育協会へ

平成23年度より一層の組織の活性化、運営の厳正化を図り、公的にも認められた団体として活動するために、法人格取得のための調査研究を開始する。

以来、約4年間にわたり総務委員会を中心に、県民協働課のご指導も受けながら、すでに法人化されている近隣の体育協会などからの情報収集、本協会内の各地域体協や競技団体からの意見聴取や説明会を重ね、平成27年1月に総務部会と事業部会、財務部会で構成する設立準備委員会を結成し、定款案の作成、諸規程案の作成、事業計画案、予算案の作成など法人化に向けて準備を進め、平成27年10月24日に堀金公民館講堂において設立総会を開催した。



平成27年10月24日 設立総会の様子

この総会で新たに理事、監事が選任され、理事の互選により赤羽高明氏が会長に選任された。

設立総会から平成28年度設立認証に向け手続きを進め、平成28年4月14日付で長野県から設立が認証された。同4月20日に登記を完了し、安曇野市体育協会は発足10年の節目となる年に「特定非営利活動法人安曇野市体育協会」として再出発することになった。

平成28年6月1日に開催された安曇野市体育協会最後の代議員で3期6年間第二代会長を務めた下里安生氏が退任し、安曇野市体育協会は解散した。

平成28年6月11日に安曇野市体育協会設立10周年記念事業として堀金総合体育館サブアリーナにおいて、バルセロナ、アトランタオリンピックメダリストの有森裕子さんを講師にお招きし「よろこびを力に・・・」と題して講演会を開催した。参加者は約230名。

講演終了後、あづみ農協鳥川支所において記念式典を挙行。来賓、加盟団体を含め出席者は40名。



平成28年6月11日 創立10周年記念式典

3 その後の活動

(1) 平成29年11月24日には2027年に長野県で開催が予定されている第82回国民体育大会に向けて、松本広域連合（松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村）として、主会場を松本地域に誘致したい旨、3市体協（松本・塩尻・安曇野）で県知事へ要望書を提出した。

(2) 中信4市スポーツ協会・体育協会協議会設立

令和2年7月30日松本市総合体育館において設立会議を行い、中信4市スポーツ協会・体育協会協議会設立。体協事業における情報交換の場として活かしていく。令和2年9月23日には松本平広域公園体育館の全面改築、ビーチバレーコートの新設について県への要望活動を行う。＊松本・大町・塩尻・安曇野

(3) 豊科南部総合公園（安曇野市総合体育館含む）の指定管理者に選定

令和2年11月に市教育委員会より指定管理者の公募が始まり(株)ミズノ、(株)アシスト&ソリューション、安曇野市体協の3社で安曇野市に提案書を提出し、年明け1月18日の審査会には、ミズノ3名、A&Sと本協会各1名の計5名で臨み、3社JVで指定管理者に選定された。10月完成予定で、翌令和4年1月の開館に向け準備を進めていく。

(4) 本協会の名称変更

令和3年6月17日開催の通常総会において、本協会名を特定非営利活動法人安曇野市スポーツ協会に変更する旨、定款変更の議案が議決され、8月12日に長野県に認証され、8月31日に登記が完了した。